

# 108. ハーモナイゼーション harmonization

「外来語」 言い換え提案 (第1回)

全体 ☆☆☆☆ 60歳以上 ☆☆☆☆

ハーモナイゼーション

**言い換え語** 協調

**用例** 各国の政策も変化しており、国際的なハーモナイゼーションが必要だ。

**意味説明** 国際間で制度などの調和を図ること

**手引き** ・国際的に制度などの調和を図っていくことを指し、「協調」のほか、その他の言い換え語例に示す語を、文脈に応じて使い分けていく必要がある。

**その他の言い換え語例** 調整 国際協調 制度調和

【調査データ】

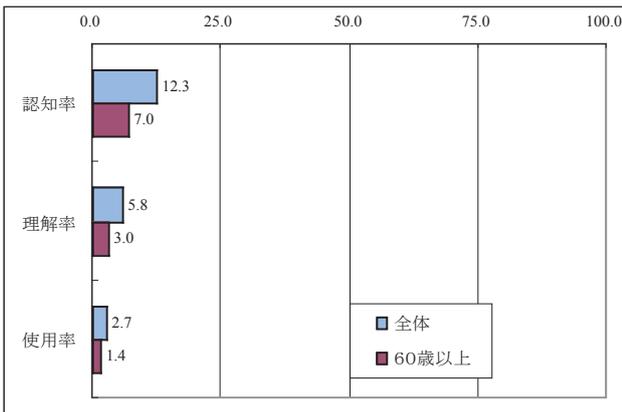


図1 定着度 (全体・60歳以上) %

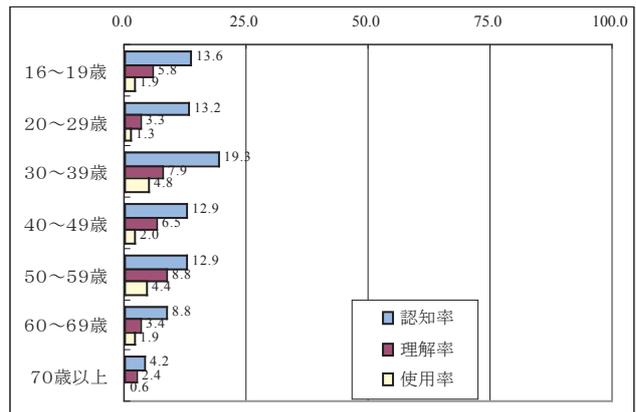


図2 定着度 (年齢層別) %

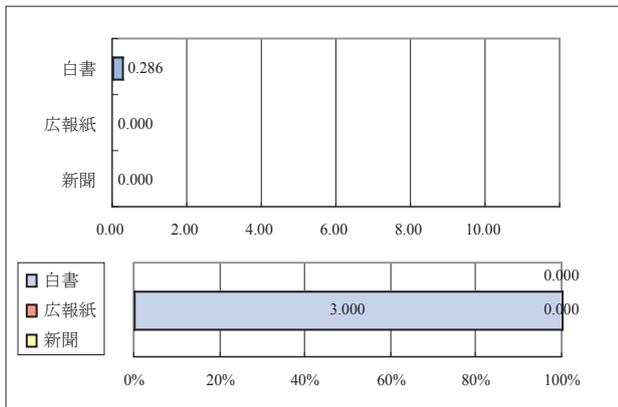


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

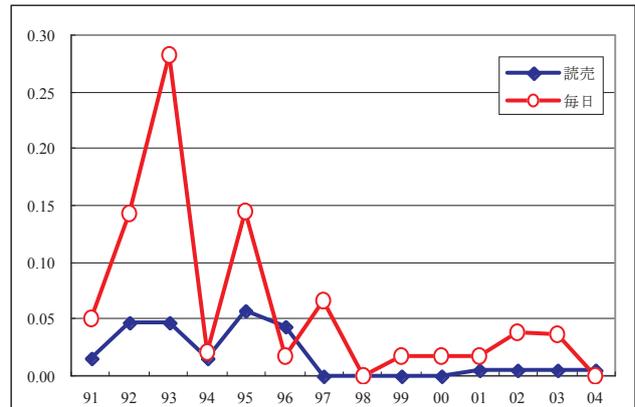


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

- 定着度はきわめて低い。
- 公共媒体における頻度は低い。白書への偏在度が高い。
- 新聞の頻度はきわめて低いため、推移の傾向を見ることはできない。特に1998年以降は新聞にほとんど使われなくなった。

## 【言い換えの論点】

○新聞でも使われなくなってきており、専門性の高い語だと考えられる。白書には現在も使われているため、文脈に応じて言い換える必要性の高いことを、指摘した。

## 109. バイテクノロジー biotechnology

「外来語」言い換え提案（第4回）

	全体	60歳以上
バイオテクノロジー	★★★★☆	★★★☆☆
言い換え語	生命工学	
用例	遺伝子研究など、 <u>生命工学</u> の基礎研究から取り組み始めたのだ。	
意味説明	生物の機能を工学的に応用した研究や技術	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「バイオテクノロジー」は、遺伝子組み換えや人工生命などの先端科学に関する報道などを通して一般の人の目に触れやすくなっているが、こうした場合は「生命工学」と言い換えるのが分かりやすい。</li> <li>・「バイオテクノロジー」は本来、植物や微生物も含めて、生物全般の機能を工学的に応用する研究を広く指し、こうした場合は「生物工学」と言い換える方が適切である。</li> <li>・研究よりも技術に焦点の当たる場合は、「生命技術」と言い換えることが適切な場合もある。</li> <li>・定着に向かっていて語だと思われ、「バイオテクノロジー」をそのまま用いることにさほど問題のない場面も多いと思われる。ただし60歳以上では、半数以上が分からない語であり、言い換えや説明付与が望まれる場合も多い。</li> <li>・略して「バイオ」という語形が用いられることもあるが、定着度は「バイオテクノロジー」よりも低く（全体★★☆☆、60歳以上★☆☆☆）、分かりにくい。</li> </ul>	
その他の言い換え語例	生物工学 生命技術	

## 【調査データ】

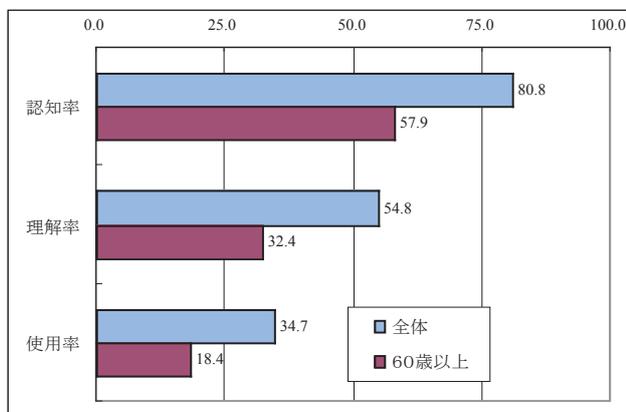


図1 定着度（全体・60歳以上）%

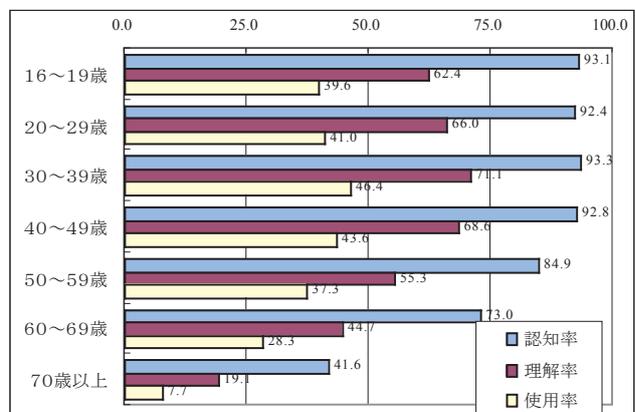


図2 定着度（年齢層別）%

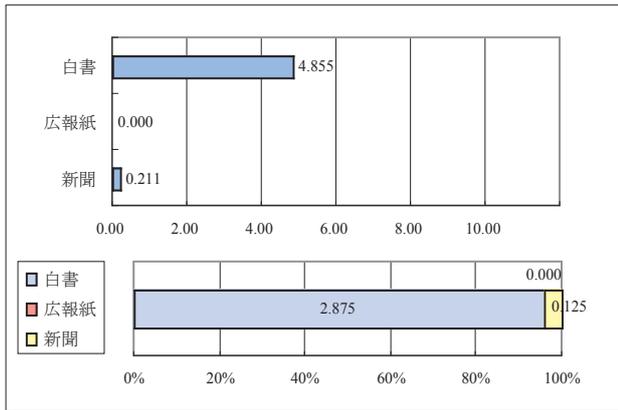


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

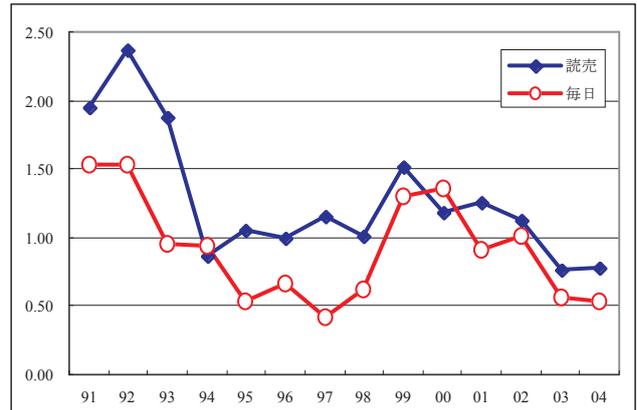


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

- 定着度は中程度だがどちらかといえば高い。認知率と理解率の乖離が大きい。
- 公共媒体における頻度はやや高い。白書への偏在度がきわめて高い。
- 新聞の頻度推移は、1990年代初めと、1999～2000年頃にやや高い山がある。全体を通して、頻度は比較的安定している。

【言い換えの論点】

- 定着しつつある専門用語であるので言い換え提案に入れる必要はないという意見と、現代人の日常生活に深くかかわってくるのでぜひ言い換えたいという意見とがあった。国民に理解してほしい概念であるので、提案に含めることとした。
- 適切な言い換え語は「生命工学」と「生物工学」の二つが考えられ、ともに実績がある。専門分野での用法を見ると、「バイオテクノロジー」をどうとらえるかによる、言い換え語の違いであると見られたので、内容によって適切な言い換え語が変わることを、[手引き]に記した。

110. バイオマス biomass

「外来語」言い換え提案(第4回)

	全体	60歳以上
バイオマス	★☆☆☆	★☆☆☆
言い換え語	生物由来資源	
用例	稲わらはもちろんおがくずや米ぬかなど様々な生物由来資源を原料として利用できることと	
意味説明	エネルギーなどとして利用することができる、生物に由来する資源	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定の地域に生息する生物の全体量を指す、生態学の専門用語として、従来用いられてきたが、環境問題への対応の中から新しい使われ方が生まれ、広まりつつある。</li> <li>・1990年代後半から、循環型社会の実現に向け、農林・水産・畜産業において、従来は廃棄され利用されていなかった家畜の排せつ物や生ごみ、木くず、もみがらなどを、資源として重視する考え方が広まり始めた。</li> <li>・生物から生み出されたこのような再生可能な資源を「バイオマス」と言う。2002年に閣議決定された「バイオマス・ニッポン総合戦略」により、多方面で「バイオマス」の普及が図られている。</li> </ul>	

- ・環境を保全しながらエネルギーを確保することのできる新しい資源である「バイオマス」は、石油などへの依存を脱していくことが望まれている現代社会にとって、重要性を増すと考えられる。その普及のためにも、言い換えや説明付与の必要性は高い。
- ・「バイオマス」は、動物よりも植物に由来する資源であることが一般的で、この点に着眼して、「植物由来資源」という語を用いることも考えられる。例えば、「バイオマスプラスチック」は植物由来のバイオマスによって作られるプラスチックである。
- ・「生物に由来する資源」などと説明的な語句を用いることも考えられる。

その他の言い換え語例 植物由来資源

複合語例 バイオマスエネルギー = 生物由来エネルギー  
バイオマスプラスチック = 植物由来プラスチック

### 【調査データ】

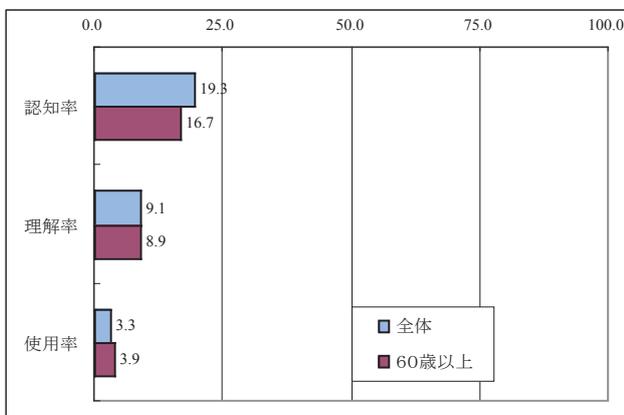


図1 定着度（全体・60歳以上）%

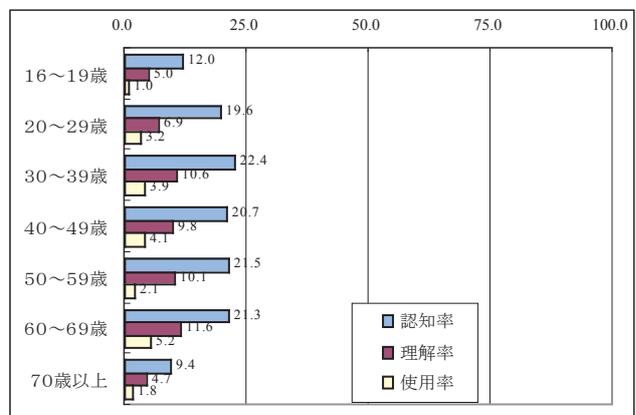


図2 定着度（年齢層別）%

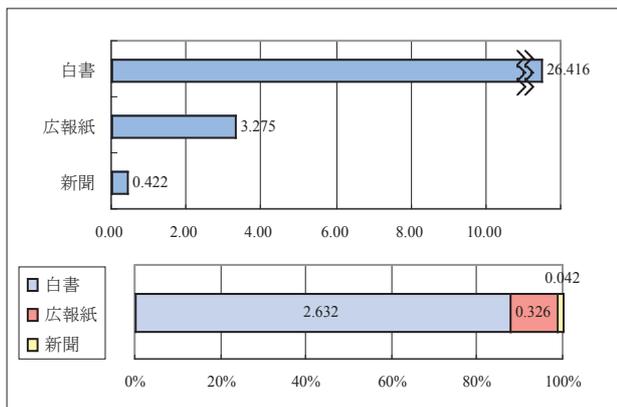


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

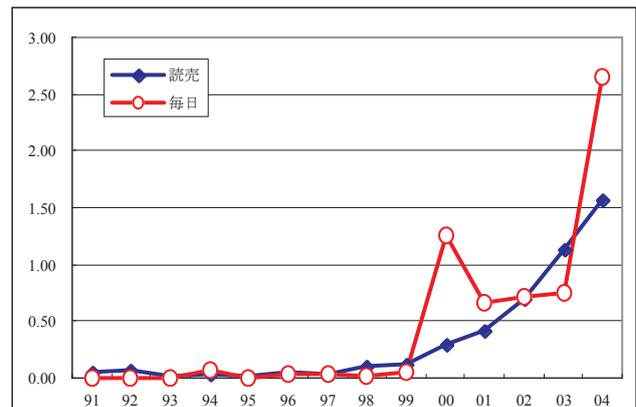


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

- 定着度はきわめて低い。認知率と理解率の乖離が大きい。
- 公共媒体における頻度はきわめて高い。白書への偏在度が高い。
- 新聞の頻度は、2000年以後増加の方向がはっきりしている。

### 【背景事情】

- 環境保全のための新しいエネルギー資源として注目されたことで、話題になることが増えてきた。白書への偏在度が高いことから分かるように、「バイオマス・ニッポン総合戦略」（2002年閣議決定）にかかわる動きなど、現段階では行政主導で広められている段階である。

【言い換えの論点】

- 「生物資源」という言い換え語が、語形も短く端的でよいという意見があった。一方で、「生物資源」は、バイオテクノロジーの分野を連想させ、「バイオマス」の言い換え語には不適切という意見もあった。
- 専門分野で「生物に由来する資源」という説明を行うことがあり、これを縮約した「生物由来資源」は、意味をよく表す点では分かりやすい。現段階では専門性の高い「バイオマス」には、説明的な言い換え語を添える方法が効果的だと考え、これを言い換え語に採った。

# 111. ハイブリッド hybrid

「外来語」言い換え提案（第4回）

	全体	60歳以上
ハイブリッド	★★☆☆	★☆☆☆
<b>言い換え語</b>	複合型	
<b>用例</b>	軽油に代わる燃料の開発、あるいはディーゼルと他の動力源によるハイブリッドが模索されている。	
<b>意味説明</b>	異種のもの同士が組み合わされて、新しいものができると。また、新しくできたもの。	
<b>手引き</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ハイブリッド〇〇」の形で、様々な複合語を構成するが、その多くは「複合〇〇」と言い換えると分かりやすくなる。</li> <li>・ガソリンエンジンのほかにも動力源を持ち、ガソリン消費量を抑えて走ることのできる「ハイブリッド車」「ハイブリッドカー」は、「複合動力車」という言い換え語が適切である。</li> <li>・植物や動物における種の掛け合わせを指す場合は、「異種混合」などと言い換えるのが適切である。</li> </ul>	
<b>その他の言い換え語例</b>	複合 複合物 異種混合	
<b>複合語例</b>	ハイブリッド車、ハイブリッドカー = 複合動力車 ハイブリッド発電 = 複合発電 ハイブリッド型 = 複合型 ハイブリッド式 = 複合式	

【調査データ】

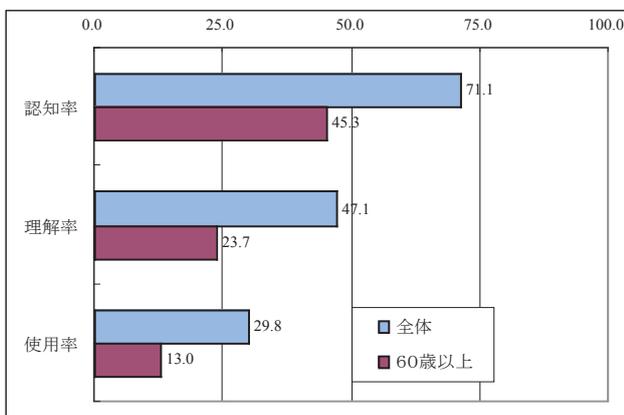


図1 定着度（全体・60歳以上）%

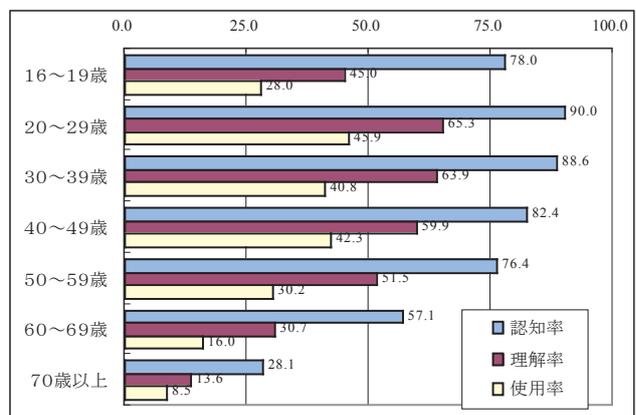


図2 定着度（年齢層別）%

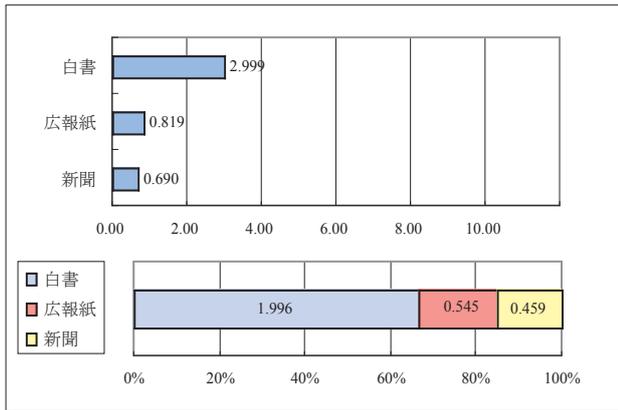


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

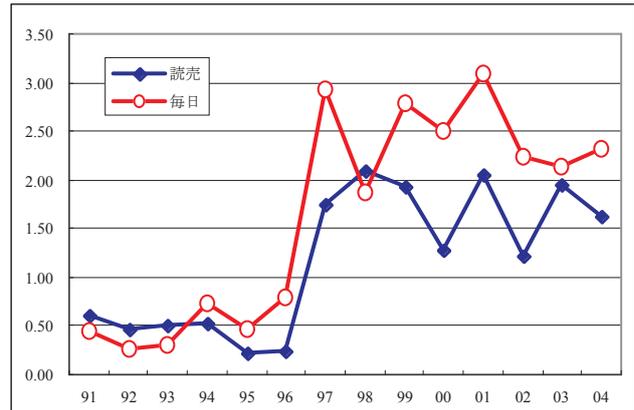


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

- 定着度は中程度だがどちらかといえば低い。60歳代が低い。
- 公共媒体における頻度はやや高い。白書への偏在度がやや高い。
- 新聞の頻度は、1997年に急増し、それ以後はほぼ横ばいである。

【背景事情】

- 新聞の頻度が1997年に急増するのは、この年、世界で初めての量産型ハイブリッド車を、日本の自動車メーカーが発売したことが、大きな話題になったことによる。この年以後、「ハイブリッド」の用例の大半は、自動車に関するものになった。燃料消費を低く抑えることのできる新しい動力として、普及が期待されている。

【言い換えの論点】

- 近年一般化が著しい自動車などの場合と、従来あった生物の場合とは、言い換え語を使い分ける方が分かりやすい。自動車などの場合に使いやすい「複合型」を言い換え語とし、生物の場合に使いやすい「異種混合」を[その他の言い換え語例]とした。

## 112. ハザードマップ hazard map

「外来語」言い換え提案(第3回)

	全体	60歳以上
ハザードマップ	★☆☆☆	★☆☆☆
言い換え語	災害予測地図	防災地図
用例	五月に公表された磐梯山のハザードマップは、明治の大噴火の規模を想定し、地元の猪苗代、北塩原、磐梯の三町村で土石流や降灰などの被害を予想している。	
	各都道府県に対して、災害時に地域住民が円滑かつ迅速な避難行動が行えるよう、 <u>防災地図</u> の作成等を要請しています。	
意味説明	防災を目的に、災害に遭う地域を予測し表示した地図	
手引き	・ 災害に遭う地域を予測した地図を指すのが本来であり、「災害予測地図」と言い換えるのが分かりやすい。	

・住民向けに作られたものは、災害の危険のある地域を示すだけでなく、避難場所や避難経路などの防災情報を含んだ地図を指すことも多い。その場合は「防災地図」と言い換えるのが分かりやすい。

**その他の言い換え語例** 災害危険予測地図

**複合語例** 火山ハザードマップ = 火山災害の予測地図 火山の防災地図  
 洪水ハザードマップ = 洪水災害の予測地図 洪水の防災地図

**【調査データ】**

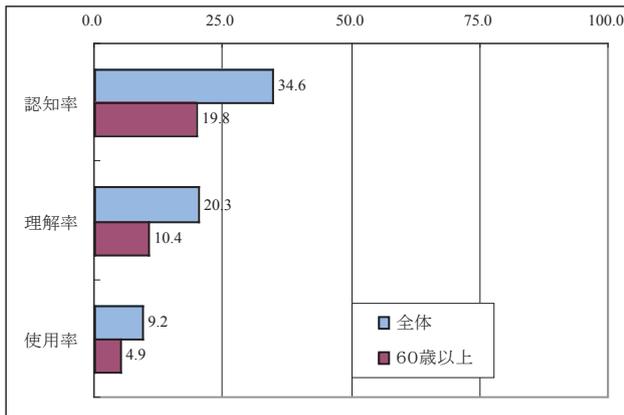


図1 定着度（全体・60歳以上）%

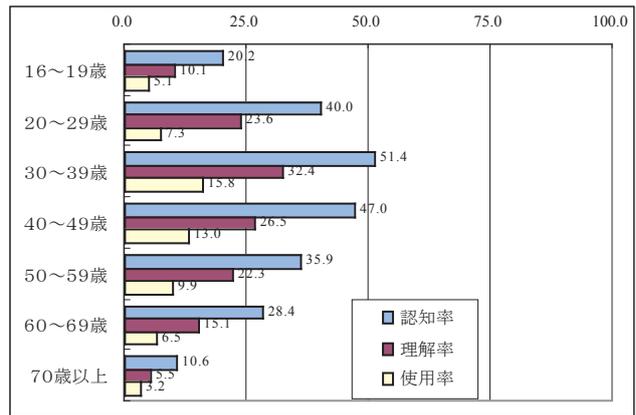


図2 定着度（年齢層別）%

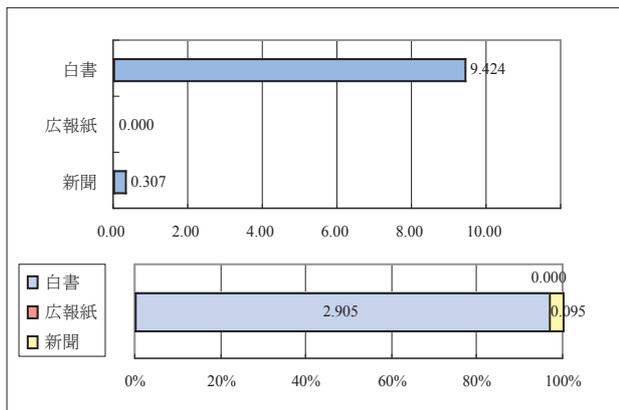


図3 公共媒体における頻度（出現率）と偏り（特化係数）

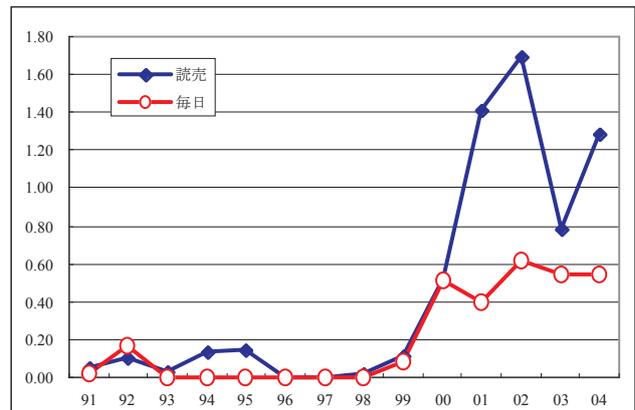


図4 新聞14年間の頻度推移（出現率）

- 定着度は低い。理解率と使用率の乖離が大きい。
- 公共媒体における頻度は高い。白書への偏在度がきわめて高い。
- 新聞の頻度は、2000年以後増加の方向にある。

**【背景事情】**

○1990年代、噴火、洪水などの災害時に被害が想定される区域を地図に表して、住民に示すことが、国や一部の自治体によって試みられてきた。これが、2000年代になって、多くの自治体に広がった。

**【言い換えの論点】**

- 災害について、「予測」に重点を置いた地図なのか、「防災」に重点を置いた地図なのかで、適切な言い換え語は変わってくる。現状における「ハザードマップ」の使われ方は、この両面を持っている。
- 「ハザードマップ」に上の二つの意味を持たせると混乱するので、言い換え語は、本来の意味である「災害予測地図」に限るべきだという、強い意見もあった。一方で、現状に対応するには、地図の内容や用途に応じて、言い換え語を使い分けるのが適切という意見も根強くあった。後者の意見を採用し、二つの語を言い換え語に並記し、その使い分けを〔用例〕や〔手引き〕に明記した。

## 113. バックアップ backup

「外来語」言い換え提案（第2回）

バックアップ	全体 ★★★★☆	60歳以上 ★★★★☆
<b>言い換え語</b>	(1) 支援	(2) 控え
<b>用例</b>	(1) 現場の負担を軽減するためには、国による財政的な <sup>支 援</sup> バックアップがどうしても必要だ。 (2) 万一データがなくなっても、 <sup>控 え</sup> バックアップを取っていれば再度書き込んで元通りに使える。	
<b>意味説明</b>	(1) 他人の行動を、うしろだてとなって支援すること (2) 事故に備えて控えを作ること。また、その控え。	
<b>手引き</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(1) は、スポーツでボールを取る人の後ろに回って守備することを指す場合など、「バックアップ」がかなり定着していると思われる用法もあるが、分かりにくいと感じる向きもあり、言い換えや説明付与が望まれる場合も多い。</li> <li>・(2) はコンピューターを使う人にとっては定着した語であるが、コンピューターを使わない人には分かりにくさが残る。必要に応じて、言い換えたり説明を付与したりすることが望まれる。</li> <li>・文脈によって、(1)「援護」「うしろだて」、(2)「予備」「複製」などの、言い換え語が適切になる場合もある。</li> <li>・動詞として使われる場合は、(1)「支援する」「援護する」、(2)「控えを取る」「予備を取る」「複製する」などと、言い換えることができる。</li> </ul>	
<b>その他の言い換え語例</b>	(1) 援護 うしろだて	(2) 予備 複製

## 【調査データ】

- 定着度はやや高い。年齢層による差異が大きい。30歳代が高く、60歳代が低い。
- 公共媒体における頻度はやや高い。
- 新聞の頻度は、ゆるやかな減少の方向にある。1995年に小さな山があるのは、この年からコンピューターのデータの控えを表す用法が増加したことによるものである。

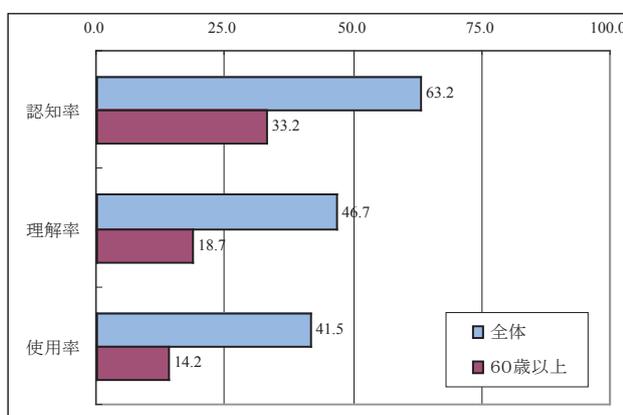


図1 定着度（全体・60歳以上）%

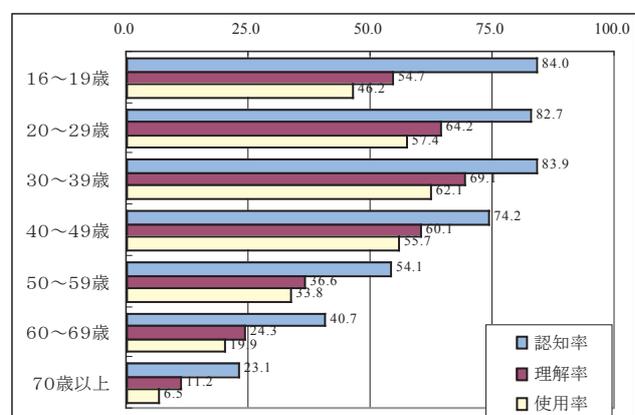


図2 定着度（年齢層別）%

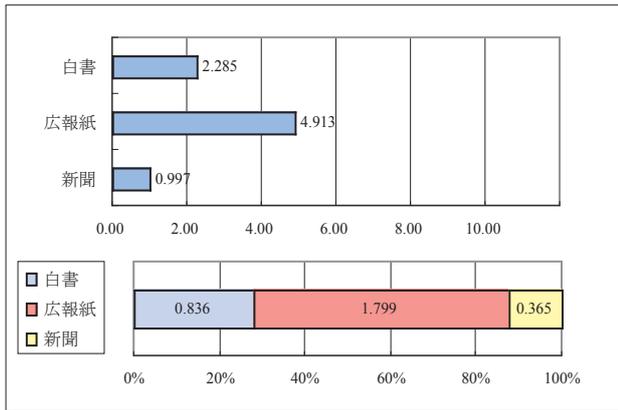


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

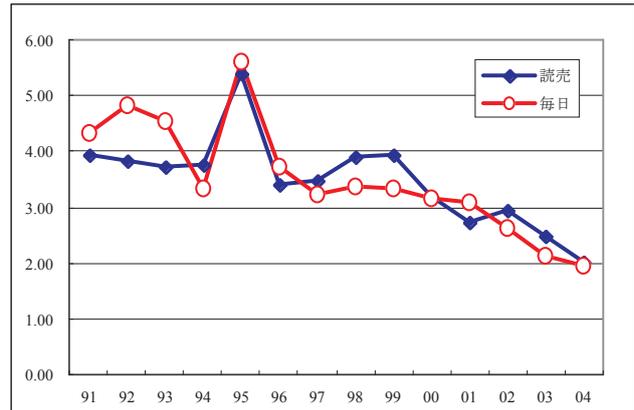


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

【言い換えの論点】

○(2)の語義は、指し示す内容を直接表せる「複製」が適切だという意見も多かった。しかし、「複製」はコピーをして人に渡すというような場合にも使う言葉であるので、意味が不適切になる場合もある。もしものときのためという意味が表せる「控え」の方が、言い換え語としては優っていると考えた。

## 114. バックオフィス back office

「外来語」言い換え提案(第1回)

	全体	60歳以上
バックオフィス	★☆☆☆	★☆☆☆
<b>言い換え語</b>	事務管理部門	
<b>用例</b>	生産性革命の舞台は工場の製造ラインから、 <u>事務管理部門</u> 、 <u>バックオフィス</u> や企業間取引まで広がっている。	
<b>意味説明</b>	前面に出ることなく後方で事務や管理業務を行う部門	
<b>手引き</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実業界の現場などでは、「バックオフィス」に当たるものとして「間接部門」が使われる場合もあるが、一般に対してはやや分かりにくいと思われる。</li> <li>・業務の内容に即し、「事務部門」「管理部門」のように言い換えてもよい。</li> <li>・対になる語に「フロントオフィス」があるが、「営業部門」「顧客部門」など、業務の内容に即して言い換えたい。</li> </ul>	
<b>その他の言い換え語例</b>	事務部門 管理部門 間接部門	
<b>複合語例</b>	バックオフィス部門 = 事務管理部門 バックオフィス業務 = 事務管理業務	

【調査データ】

- 定着度はきわめて低い。認知率と理解率の乖離が大きい。
- 公共媒体における頻度は低い。新聞への偏在度が高い。
- 新聞の頻度はきわめて低いため、増減の傾向を見ることはできない。

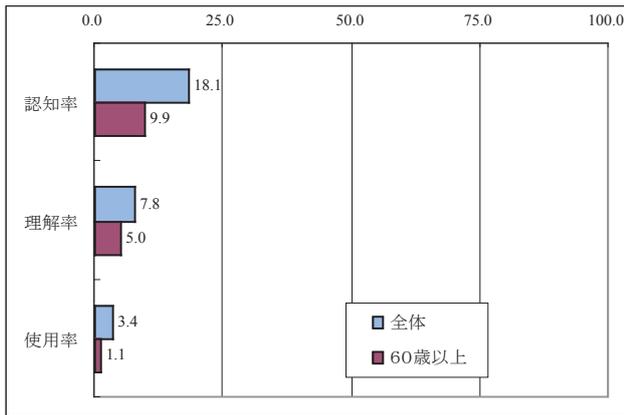


図1 定着度（全体・60歳以上）%

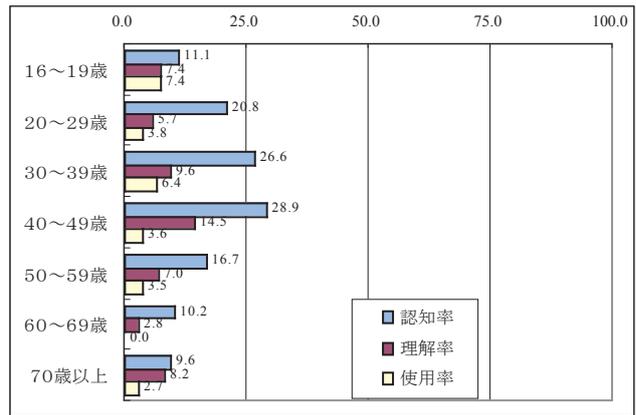


図2 定着度（年齢層別）%

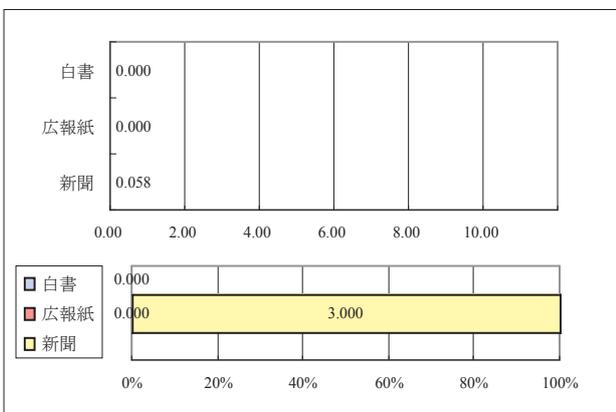


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

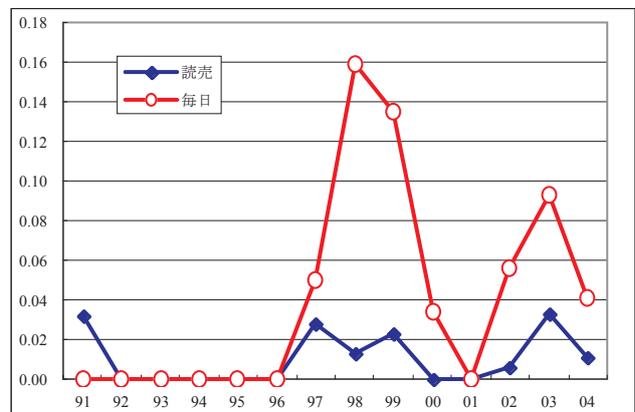


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

【言い換えの論点】

○直訳の「後方」を使うよりも、実体を表す「事務管理」あるいは、単に「事務」「管理」などを使う方が分かりやすいと考えた。

115. パブリックインボルブメント

public involvement

「外来語」言い換え提案（第3回）

	全体	60歳以上
パブリックインボルブメント	★☆☆☆	★☆☆☆
<b>言い換え語</b>	住民参画	
<b>用例</b>	この計画策定手続きとして、 <u>住民参画</u> パブリックインボルブメントの仕組みの整備や地方公共団体からの意見聴取の制度化などを行う。	
<b>意味説明</b>	行政による計画の策定を、住民や市民の参加を積極的に募って行うこと	
<b>手引き</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「パブリックコメント」[⇒116]が、住民や市民に意見を求める制度であるのに対して、「パブリックインボルブメント」は、住民や市民に計画の策定への参画を求めるものである。</li> </ul>	

- ・1990年代後半から道路建設や河川改修などの計画策定に際して、この方式が試みられるようになった。今後普及が図られる概念だと思われるが、そのためにも、分かりやすい言い換えや説明付与が望まれる。
- ・現在の日本で行われているものは、道路や河川の周辺住民に参画を求める場合が多く、「住民参画」と言い換えるのが最も分かりやすい。市民一般や関連団体など、周辺住民よりも広い範囲に参画を求める場合は、「市民参画」と言い換えることも考えられる。
- ・「P I」という略語が使われる場合もあるが、分かりにくい。

その他の言い換え語例 市民参画

【調査データ】

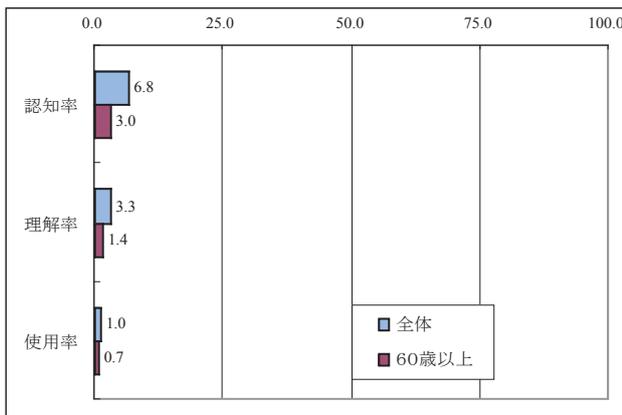


図1 定着度（全体・60歳以上）%

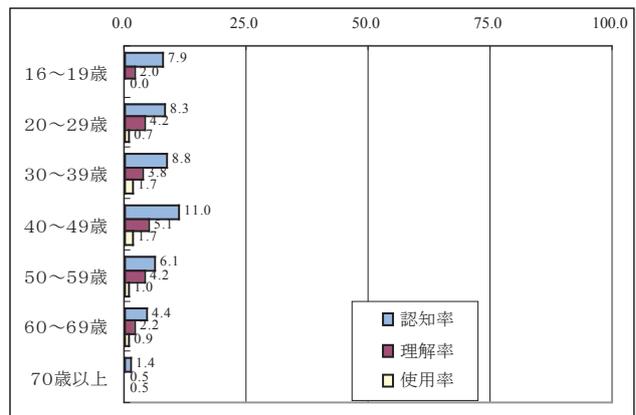


図2 定着度（年齢層別）%

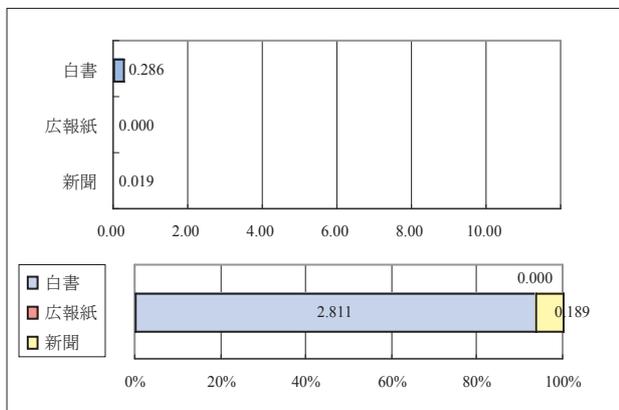


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

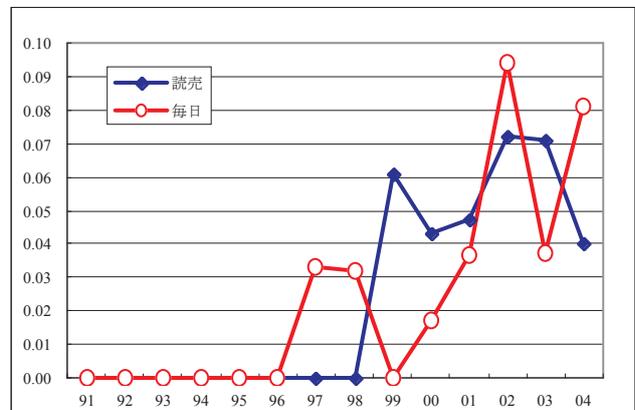


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

- 定着度はきわめて低い。
- 公共媒体における頻度はやや低い。白書への偏在度が高い。
- 新聞の頻度はきわめて低いため、推移の傾向を見ることはできない。1997年にはじめて登場した語である。

【言い換えの論点】

- 単なる「住民」にとどまらず、当該地域外の人々や、企業や民間団体なども参画するので、「市民」「民間」などの語を用いる方が適切という意見もあった。現在の日本におけるパブリックインボルブメントの実状を見ると、道路や河川に関する事業について、周辺住民の参加を求めるものが一般的で、その実体をもっともよく表すのは「住民」の語であると考えた。
- 「参加」と「参画」を比較し、政策決定に住民の参加を積極的に募る意味が強調できる、「参画」の方が適切だと考えた。

→参照 パブリックコメント

## 116. パブリックコメント public comment

「外来語」言い換え提案（第3回）

	全体	60歳以上
パブリックコメント	★☆☆☆	★☆☆☆
<b>言い換え語</b>	意見公募	
<b>用例</b>	行政は積極的に意見交換会等を開催するほか、 <u>パブリックコメント</u> の実施等消費者や生産者等との日常的な対話の場の提供に努める必要がある。	
<b>意味説明</b>	行政による施策を原案段階で公表し、市民一般から意見を募り、その上で意志決定を行う手続	
<b>手引き</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語 public comment は、この手続によって一般から提出された意見を指すが、日本では、この手続自体を「パブリックコメント手続」と呼んで取り入れ、「パブリックコメント」の形で、手続と意見との両方を指すようになった。</li> <li>国ではこの手続を1999年に閣議決定し、2005年改正の「行政手続法」に定めた。閣議決定では「意見提出手続」と呼ばれていたが、「行政手続法」には「意見公募手続」とされた。</li> <li>行政手続として制度化されていること以外に、一般に広く意見を募集することを指して「パブリックコメント」と言われることもある。その場合にも適用できる言い換え語としては、「意見公募」あるいは「意見募集」が分かりやすい。</li> <li>意見を指す場合は、「公募意見」「一般から提出された意見」「市民の意見」などと言い換えることができる。</li> <li>「パブコメ」「PC」などという略語が用いられることもあるが、分かりにくい。</li> </ul>	
<b>その他の言い換え語例</b>	意見募集 意見公募手続 意見提出手続 公募意見 一般から提出された意見 市民の意見	
<b>複合語例</b>	パブリックコメント手続 = 意見公募手続	

## 【調査データ】

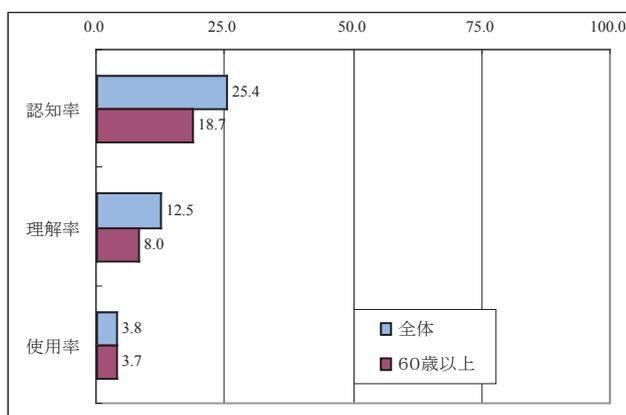


図1 定着度（全体・60歳以上）%

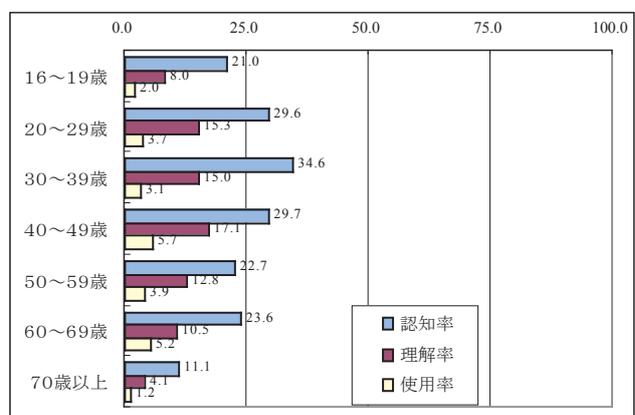


図2 定着度（年齢層別）%

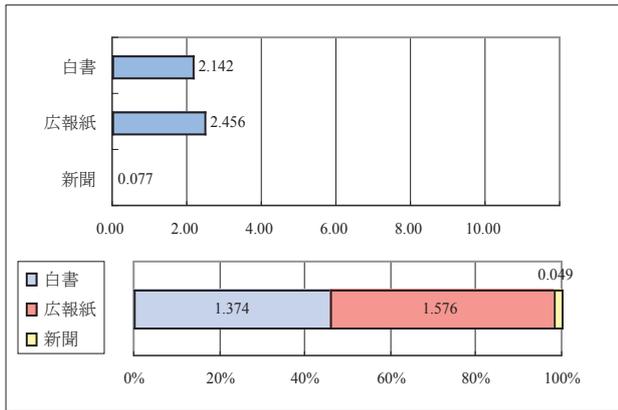


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

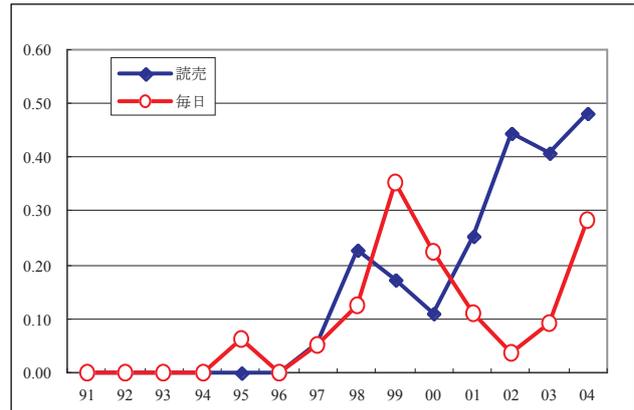


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

- 定着度は低い。認知率と理解率の乖離が大きい。理解率と使用率の乖離がきわめて大きい。
- 公共媒体における頻度はやや高い。
- 新聞の頻度は、1997年に初めて登場し、その後は全体として増加の方向がうかがえる。ただ、新聞によって増減の年が異なるので、まだ安定して用いられる語とはなっていないと見られる。

【背景事情】

- 1997年の政府の会議で「パブリックコメント」の語が初めて用いられ、1999年に閣議決定、2005年に改正された行政手続法に、「意見公募手続」として規定された。地方自治体でもこの手続きを条例などで定めているところは多い。

【言い換えの論点】

- [手引き] 第1項に記した経緯があり、意見を指すよりも手続を指すことが、外来語「パブリックコメント」の第一義である。英語の意味と外来語の意味とが異なっていることも混乱の要因になっているので、言い換えの必要性は高い。このことが明確になるような提案にした。

→参照 パブリックインボルブメント

## 117. バリアフリー barrier-free

「外来語」言い換え提案(第1回)

	全体	60歳以上
バリアフリー	★★★★☆	★★★★☆
<b>言い換え語</b>	障壁なし	
<b>用例</b>	高齢化に対応し、周辺道路を拡幅するなどして、駅からマンションまでをバリアフリーに	
<b>意味説明</b>	体の不自由な人でも支障なく活動できるような生活環境	
<b>手引き</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概念の浸透とともに定着が進みつつある語であり、「バリアフリー」をそのまま使って問題のない場合は多い。ただし、分かりにくいと感じる向きもあるので、相手や場面によっては、言い換えたり説明を付けたりする配慮が望まれる。</li> </ul>	

- ・ 障害者や高齢者にとっての生活上の障壁をなくしていこうという考え方として、1990年代に急速に普及した。従来あった障壁を取り除く側面に着眼すれば、「障壁除去」という言い換え語を用いることもできる。
- ・ 障害者や高齢者にとって障壁のない生活環境を実現する考え方が普及した後、初めから障壁を取り除きだれにとっても使いやすいように設計する考え方として、「ユニバーサルデザイン」(万人向け設計) [⇒156]や、「アクセシビリティ」(利用しやすさ) [⇒7]などが、2000年代になって広まり始めた。
- ・ 「バリアフリー住宅」「バリアフリー社会」などと、「バリアフリー〇〇」の形で用いられることも多いが、この場合は、「障壁のない〇〇」のように、句の形で言い換えたり説明を付けたりすることも考えられる。

**複合語例** 無障壁 段差なし 障壁除去

**その他の言い換え語例** バリアフリー化 = 無障壁化 障壁除去

【調査データ】

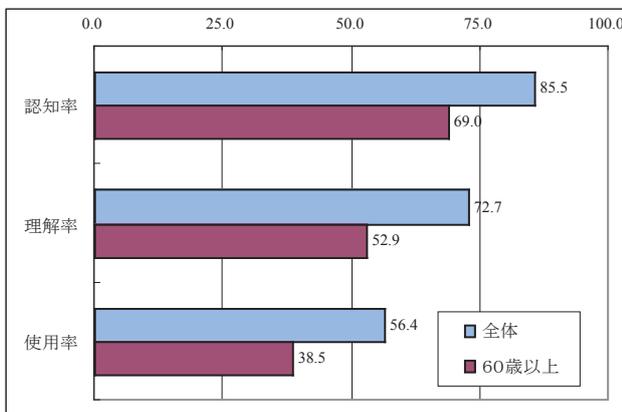


図1 定着度(全体・60歳以上) %

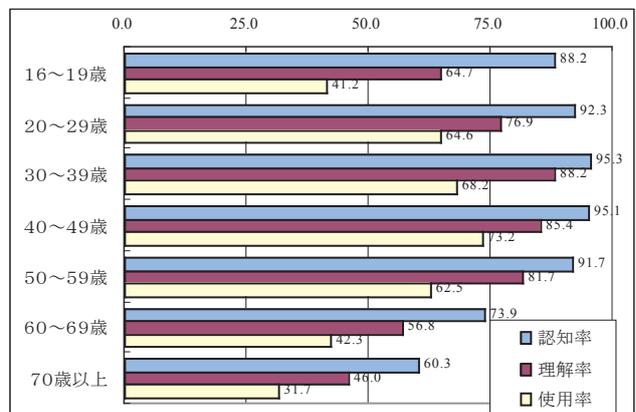


図2 定着度(年齢層別) %

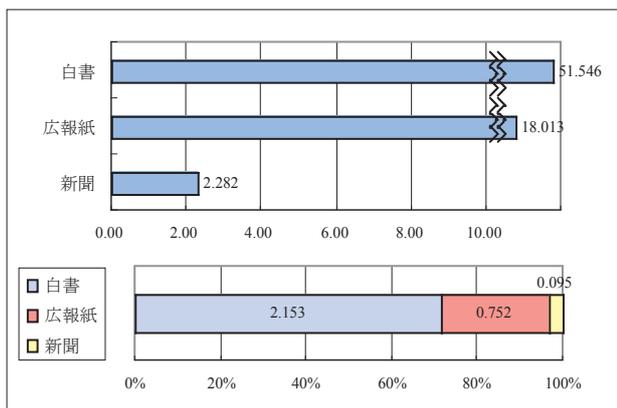


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

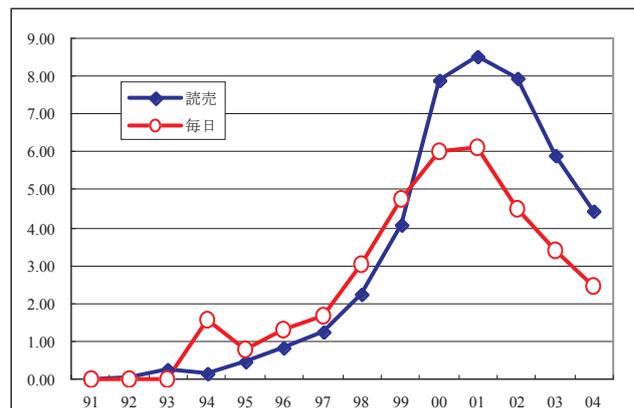


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

- 定着度はやや高い。
- 公共媒体における頻度はきわめて高い。白書への偏在度がやや高い。
- 新聞の頻度推移は、1990年代半ばから次第に増加の方向を強め、2002年を頂点として、その後は減少の方向にある。

### 【背景事情】

- 身体の不自由な人にも支障のない生活環境を作ろうという「バリアフリー」の考え方は、1993年の厚生白書で打ち出されるなど、この頃から始まった。社会では、住宅設計の分野から具体的な動きが本格化し、1994～1995年の新聞記事の用例の多くは、バリアフリー住宅に関するものである。1996年以降、デザインや街づくり、公共交通、情報など、「バリアフリー」の考え方の及ぶ範囲が次第に広がっていき、「バリアフリー社会」の考え方が普及していった。
- 2002年以後、新聞で減少しているのは、法律制定などの大きな動きが一段落して、ニュースになりにくくなってきていることを反映していると考えられる。

### 【言い換えの論点】

- 障壁のない状態を表す場合と、障壁を取り除く行為を表す場合の両方があり、どちらに焦点を当てた言い換え語が適切かを議論した。「バリアフリー化」などの言い方もあるので、状態を表すのが本来の意味と考え、「障壁なし」を言い換え語とした。一方、すでにある障壁を取り除いていこうという考え方として普及した概念であることを考えると、「障壁除去」と言い換えるのも適切であり、これを〔手引き〕と〔その他の言い換え語例〕で記した。

→参照 アクセシビリティ、ノーマライゼーション、ノンステップバス、ユニバーサルデザイン

## 118. ヒートアイランド heat island

「外来語」言い換え提案（第4回）

	全体	60歳以上
ヒートアイランド	★★★☆☆	★☆☆☆☆
<b>言い換え語</b>	都市高温化	
<b>用例</b>	都市高温化 ヒートアイランドは温暖化の縮図であり、有効な対策を打てればそのまま温暖化対策にもなる。	
<b>意味説明</b>	都市部の気温が周辺部より高くなる現象	
<b>手引き</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・等温図を描いたときに、都市部の気温が周辺部よりも高い様子が、島状になって現れるところからの呼び名である。</li><li>・「熱の島」と言い換えることもできるが、その場合も「熱の島（都市高温化）」などと、説明を付与する必要がある。</li><li>・1990年代後半からよく使われるようになったが、意味を理解している人は少ないので、言い換えや説明付与の必要性は高い。</li></ul>	
<b>その他の言い換え語例</b>	熱の島	

### 【調査データ】

- 定着度はやや低い。理解率と使用率の乖離が大きい。30歳代が高く、60歳代が特に低い。
- 公共媒体における頻度はやや高い。
- 新聞の頻度は、2000年以後増加の方向にある。

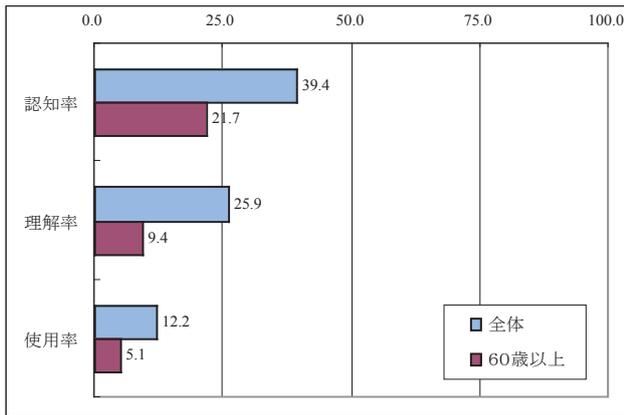


図1 定着度（全体・60歳以上）%

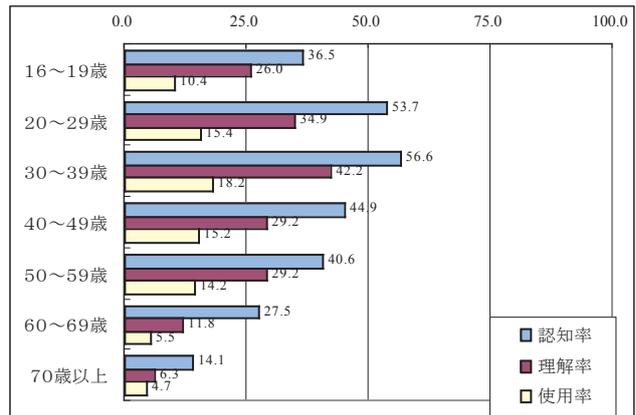


図2 定着度（年齢層別）%

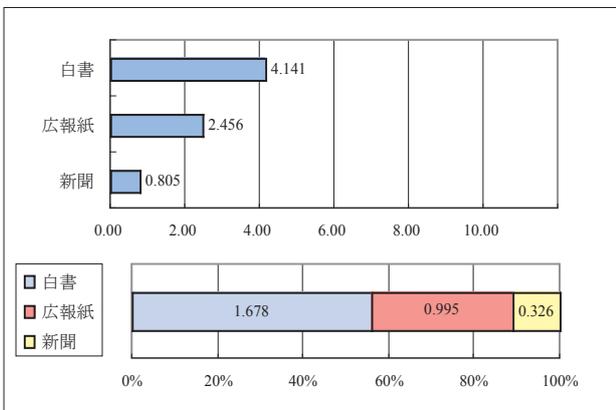


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

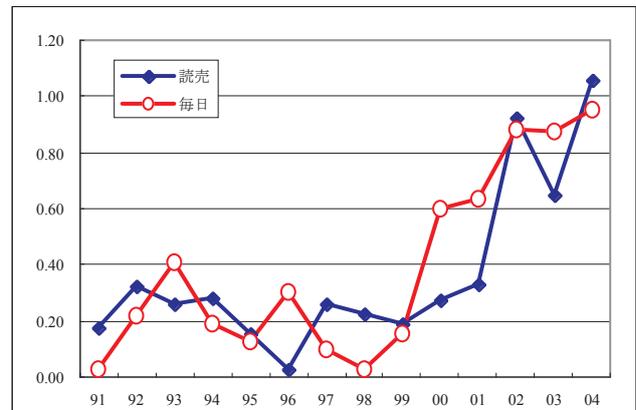


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

### 【背景事情】

○年々暑くなる都市の夏の気象を指す、専門性の高い語であったが、マスコミで報道される機会が増加し、次第に知られるようになってきている。屋上緑化や打ち水など、解消に向けた対策なども盛んになってきており、話題になることがいっそう多くなっている。

### 【言い換えの論点】

- 直訳の「熱の島」と言い換えられることがあるが、これだけでは、何を表しているかが伝わらない。
- 「都市高温化」は、内容を説明する語として、分かりやすい。「ヒートアイランド」または「熱の島」が定着するまでは、説明もしくは言い添えの語として、効果があると考えられる。

# 119. ビオトープ Biotop ドイツ語

「外来語」言い換え提案（第4回）

全体 ★☆☆☆ 60歳以上 ★☆☆☆

**言い換え語** 生物生息空間

**用例** 陸域から海岸域までの生物生息空間のビオトープを形成するための海と陸の緑のネットワーク事業を実施します。

**意味説明** 小川や池など、野生の生物が生息できる環境を人工的に作った空間

**手引き**

- ・「ビオトープ」で生物の生態を観察するという側面に焦点を当てる場合は、「生態観察園」の語を用いることもできる。庭園風に作ったものを「ビオガーデン」という場合もあるが、同じく「生態観察園」と言い換えることができる。
- ・「ビオトープ」と呼ばれている場所を紹介する場合も、言い換え語やその他の言い換え語例、あるいは意味説明の語句などを用いて、説明を付与することが望ましい。

**その他の言い換え語例** 野生生物の生息空間 生態観察園

【調査データ】

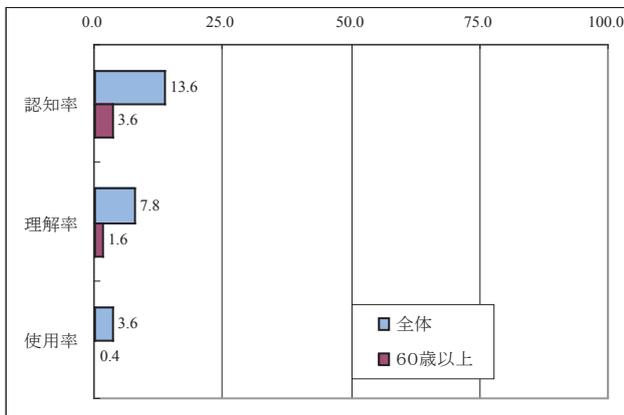


図1 定着度（全体・60歳以上）%

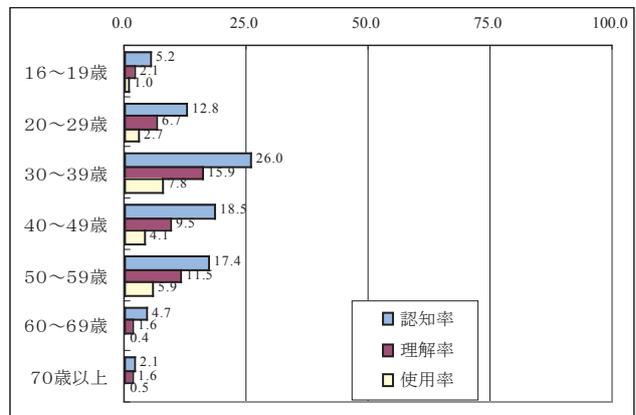


図2 定着度（年齢層別）%

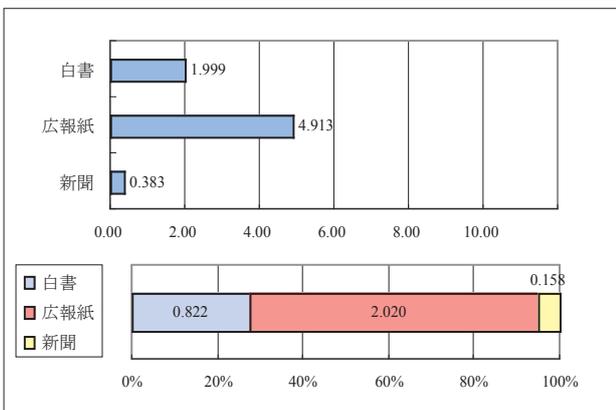


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

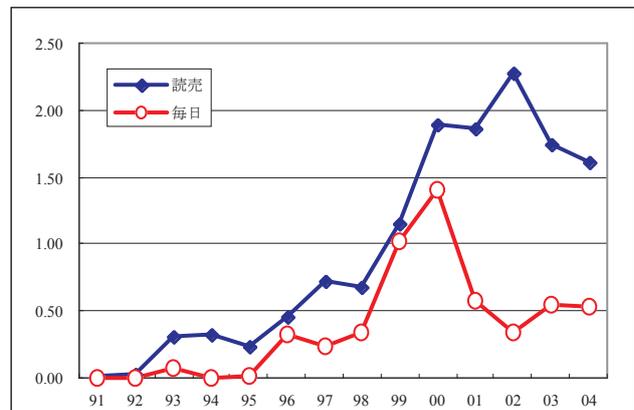


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

- 定着度はきわめて低い。
- 公共媒体における頻度はやや高い。広報誌への偏在度がやや高い。
- 新聞の頻度は、全体として増加の方向にあるが、2002年以後は横ばいである。

### 【背景事情】

- 新聞の頻度が1990年代半ばから増加していくのは、環境保全や自然生態系の保護への関心の高まりの現れのひとつだと考えられる。ビオトープ管理士の資格が話題になり、学校でのビオトープ作りが盛んになるなど、徐々に普及が進んでいる。
- ドイツ語Biotopの原義は、生物が生息する場所。日本への取り入れが、失われた生物生息空間の復元の動きとして起こったこともあり、人工的に作り出した生物生息空間を指すことが一般的になった。

### 【言い換えの論点】

- 語形が長いが「生物生息空間」などと言い換えないと、意味を表すことができない。「ビオトープ」の語が定着するまでの、説明語としての役割を担う語として提案した。

## 120. ビジョン vision

「外来語」言い換え提案（第2回）

	全体	60歳以上
ビジョン	★★★★☆	★★☆☆☆
<b>言い換え語</b>	展望	
<b>用例</b>	株安の根底には、21世紀の日本経済への <u>展望</u> が、まだ、明確でないという問題がある。	
<b>意味説明</b>	将来、望まれるものとして、心に描く展望	
<b>手引き</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像を映し出す装置を指す場合もあり、「画面」と言い換えることができる。</li> <li>・定着に向かっていない語だと思われ、「ビジョン」をそのまま用いることにさほど問題のない場面も多いと思われる。ただし、60歳以上では半数以上が分からない語であり、言い換えや説明付与が望まれる場合も多い。</li> </ul>	
<b>その他の言い換え語例</b>	画面	

### 【調査データ】

- 定着度は中程度だがどちらかといえば高い。
- 公共媒体における頻度は高い。
- 新聞の頻度推移は、1990年代前半から後半にかけやや減少した後、ほぼ横ばいである。

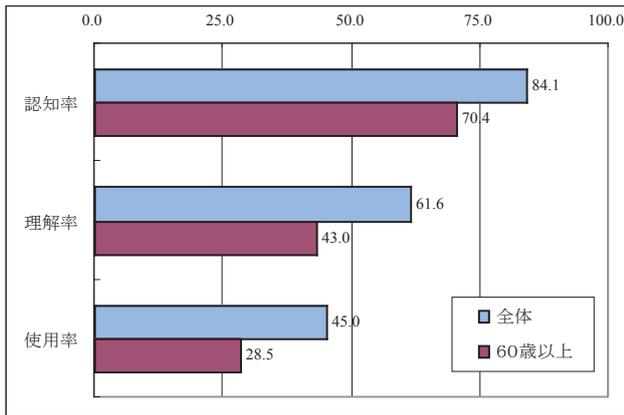


図1 定着度 (全体・60歳以上) %

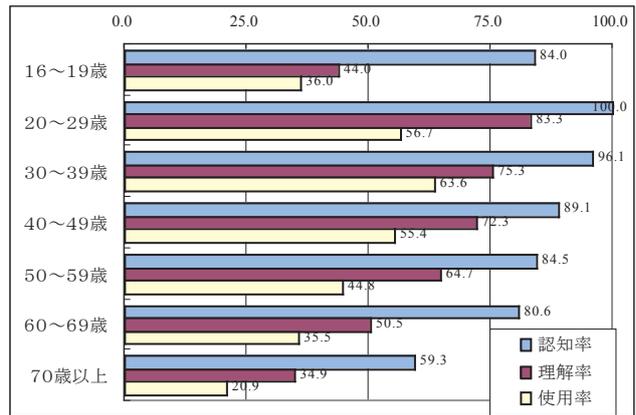


図2 定着度 (年齢層別) %

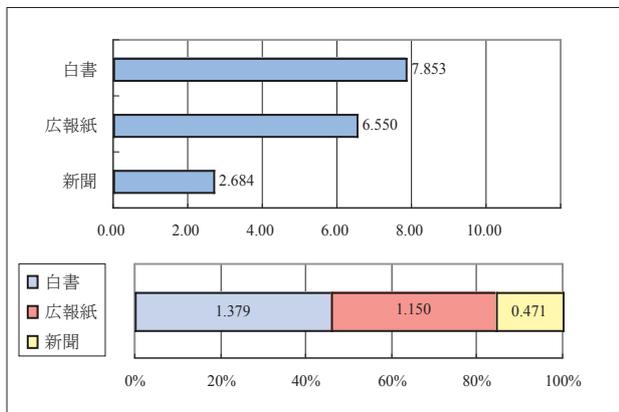


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

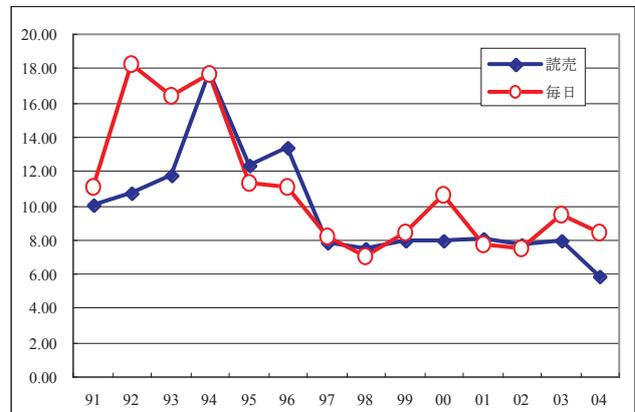


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

【言い換えの論点】

○「展望」の言い換え語が定着しており、意味も適切である。「ビジョン」も定着しつつある外来語だが、言い換え語で十分に意味が表せる場合も多いので、言い換え提案を行うべき外来語だと考えた。

121. フィルタリング filtering

「外来語」 言い換え提案 (第1回)

	全体	60歳以上
フィルタリング	☆☆☆☆	☆☆☆☆
言い換え語	選別	
用例	複数のNPOや研究グループなどの民間団体が、自主的に有害情報等をチェックする。その方針を公開して情報の <u>選別</u> の <u>フィルタリング</u> を実施する	
意味説明	必要なものと不要なものをより分けること	
手引き	・インターネット上の有害情報を選別する場合によく用いられ、この場合は「情報選別」と言い換えるのも、分かりやすい。	

・類義の外来語「スクリーニング」(ふるい分け) [⇒72]が、条件に合うものを選び出すことを意味するのに対して、「フィルタリング」は、必要なものと不要なものをより分けることを意味する。

【その他の言い換え語例】 情報選別 より分け

### 【調査データ】

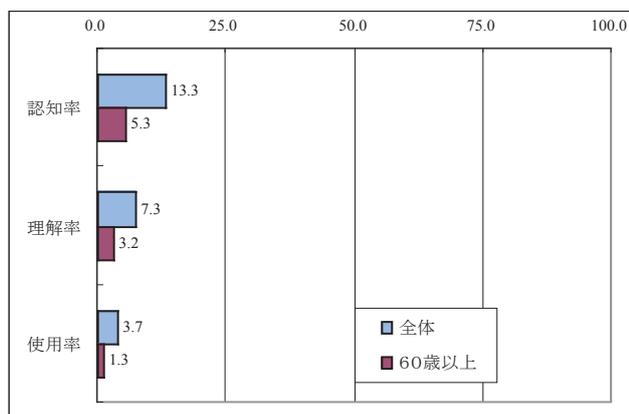


図1 定着度(全体・60歳以上) %

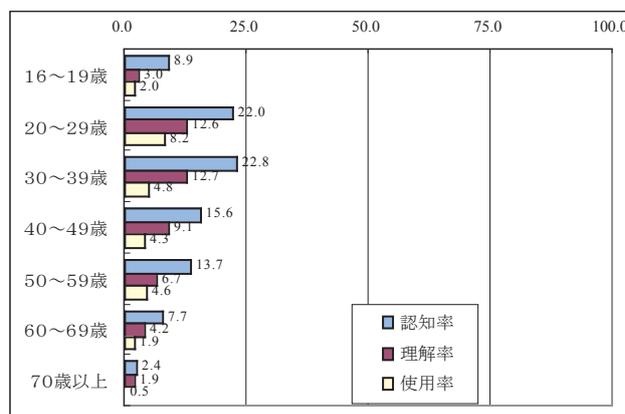


図2 定着度(年齢層別) %

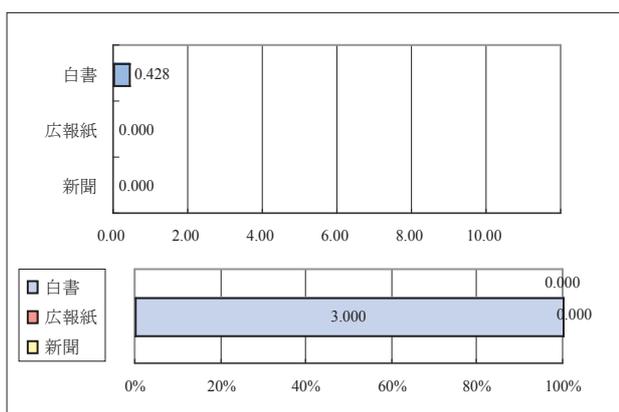


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

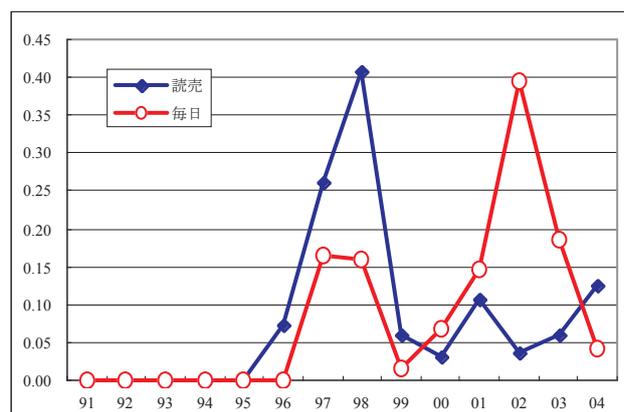


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

- 定着度はきわめて低い。
- 公共媒体における頻度はやや低い。白書への偏在度が高い。
- 新聞では1996年に初めて登場するが、低い頻度が続いている。読売新聞と毎日新聞とで頻度の頂点になる年が違うが、それぞれフィルタリングソフトにかかわる特集記事などが組まれたことによるものである。

### 【言い換えの論点】

- インターネット上の有害情報を遮断するために行う選別を指して用いられる例が大部分である。有害情報を遮断するところに着眼した言い換え語が分かりやすいという意見もあったが、有害情報以外を対象とする場合もあるので、情報の選別を意味することを伝える言い換え語の方が分かりやすいと考えた。

→参照 スクリーニング

## 122. フェローシップ fellowship

「外来語」言い換え提案（第1回）

フェローシップ		全体 ☆☆☆☆	60歳以上 ☆☆☆☆
<b>言い換え語</b>	研究奨学金		
<b>用例</b>	研究奨学金 フェローシップを受けた日本人研究者も、うち約半数は助成終了後、日本に戻らずに研究を続けている。		
<b>意味説明</b>	研究者を支援する奨学金		
<b>手引き</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奨学金を給付される資格を表す場合もあり、その場合は、「研究奨学生資格」と言い換えられる。</li> <li>・奨学金を給付される人を「フェロー」というが、「研究奨学生」「特別研究員」などと、言い換えることができる。</li> </ul>		
<b>その他の言い換え語例</b>	研究奨学生資格		

### 【調査データ】

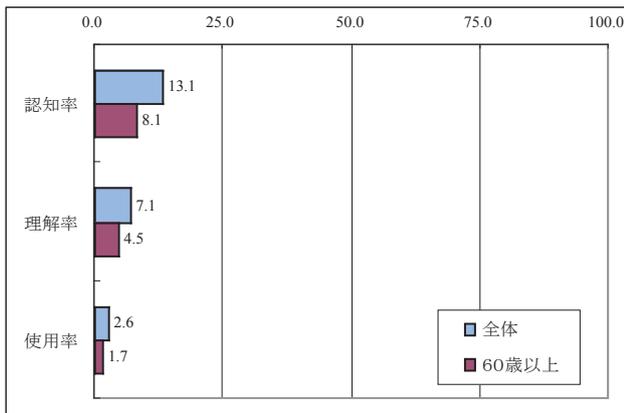


図1 定着度（全体・60歳以上）%

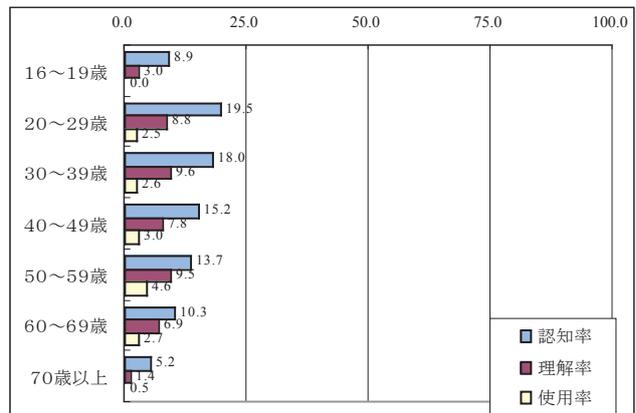


図2 定着度（年齢層別）%

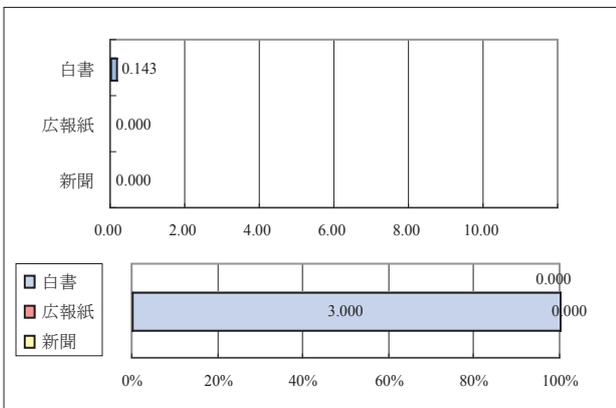


図3 公共媒体における頻度（出現率）と偏り（特化係数）

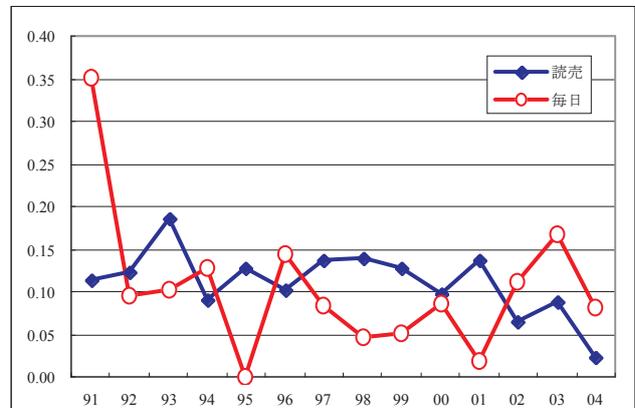


図4 新聞14年間の頻度推移（出現率）

- 定着度はきわめて低い。
- 公共媒体における頻度は低い。白書への偏在度が高い。
- 新聞の頻度は低く、増減の傾向を見ることはできない。

【言い換えの論点】

- 奨学金を表すことと、奨学金を受給する資格を表すこととがある。その両側面を、言い換え語と [その他の言い換え語] に配した。

## 123. フォローアップ follow-up

「外来語」言い換え提案（第1回）

フォローアップ	全体 ★★☆☆	60歳以上 ★☆☆☆
言い換え語	追跡調査	
用例	今後は今回採択された行動計画の実行こそが肝心で、実行を評価するきめ細かい <u>追跡調査</u> が重要となる。	
意味説明	実施状況などを追跡調査し必要に応じて手当てすること	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 後を追いかける継続的な調査よりも、事後の点検自体を問題にしている場合は、「事後点検」で言い換えることができる。</li> <li>・ 調査や点検の後、何らかの手当てを行う場合は「後の手当て」と言い換えることもできる。</li> </ul>	
その他の言い換え語例	事後点検 後の手当て	

【調査データ】

- 定着度は中程度だがどちらかといえば低い。30歳代が高く、60歳代が低い。
- 公共媒体における頻度は高い。白書への偏在度が高い。
- 新聞の頻度は、全体として減少の方向にある。1991～1992年の頻度が特に高いのは、この時期に開催された「日米構造問題協議フォローアップ会合」の報道が多いためである。

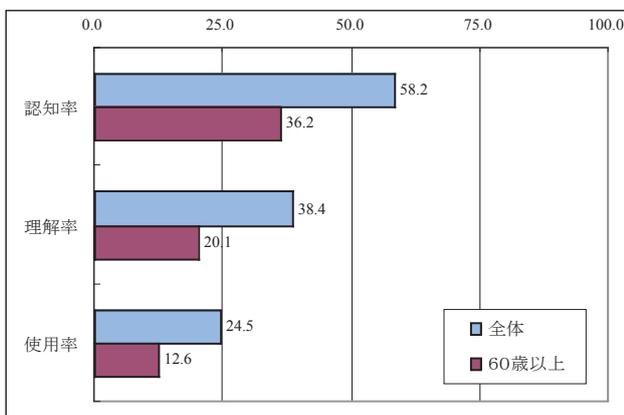


図1 定着度（全体・60歳以上）%

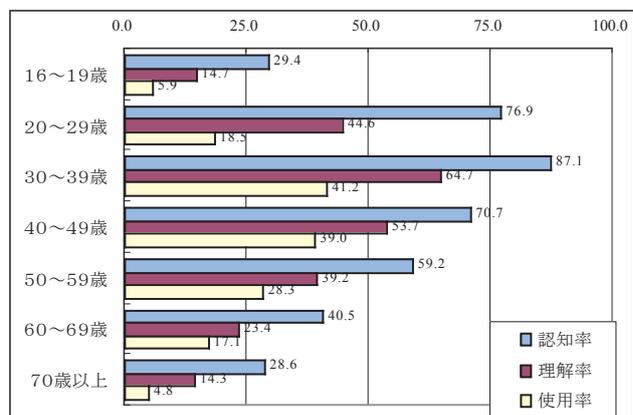


図2 定着度（年齢層別）%

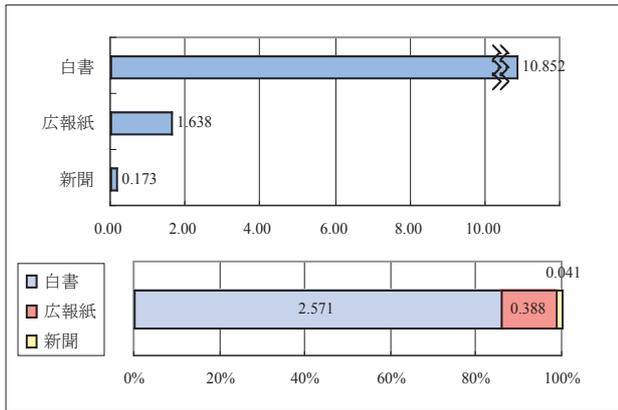


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

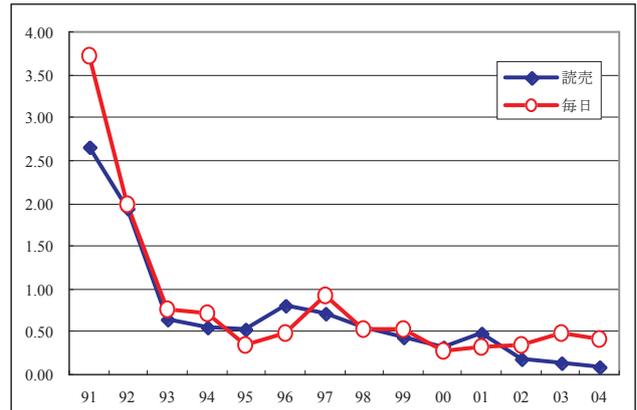


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

【言い換えの論点】

○ 言い換え語には「追跡調査」が最適であることで意見が一致した。「フォローアップ」には、追跡調査の後、補足や改善など、何らかの手当てを行う意味までを含む、という意見があった。後の手当ては、あくまで付随的なものであるが、単なる調査にとどまらない場合も多いので、この意味の語を[その他の言い換え語例]に加えることとした。

## 124. プライオリティー priority

「外来語」言い換え提案(第3回)

	全体	60歳以上
プライオリティー	★★★★	★★★★
<b>言い換え語</b>	優先順位	
<b>用例</b>	公共投資の配分の <u>プライオリティー</u> の見直しが避けられない。	
<b>意味説明</b>	他のものごとよりも重要性が高いものとして、優先する度合い	
<b>手引き</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「プライオリティーがある」など、文脈によっては「優先権」と言い換える方が適切になる場合がある。</li> <li>・「真っ先にすべきこと」などと、分かりやすく言い換えたり説明を付けたりすることが望まれる場合もある。</li> </ul>	
<b>その他の言い換え語例</b>	優先権 真っ先にすべきこと	

【調査データ】

- 定着度はきわめて低い。
- 公共媒体における頻度はきわめて低い。新聞への偏在度が高い。
- 新聞の頻度推移に、全体を通じた増減の傾向はない。定着に至らない段階で不安定な使用状況にある。

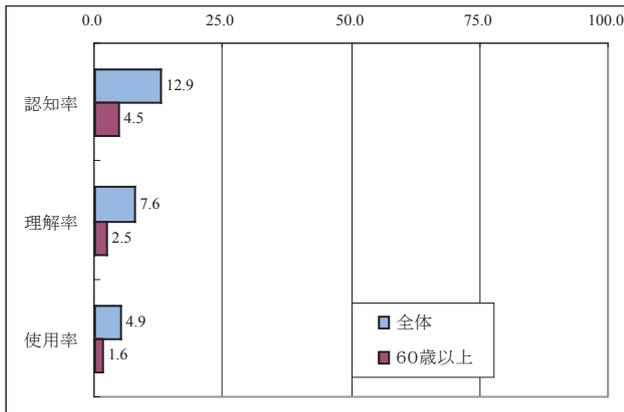


図1 定着度 (全体・60歳以上) %

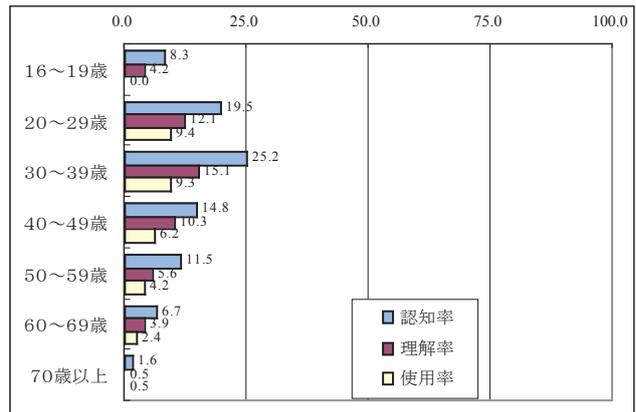


図2 定着度 (年齢層別) %

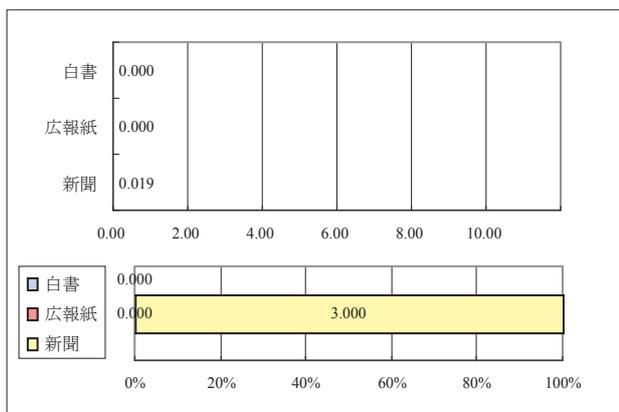


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

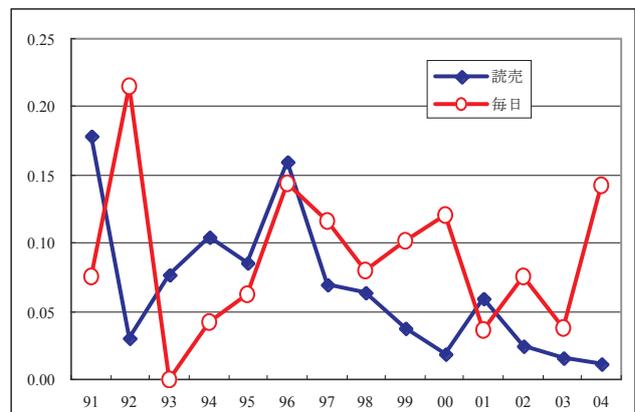


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

【言い換えの論点】

○「優先順位」「優先権」の二つが、「プライオリティー」がよく使われる文脈で、そのまま置き換えることができ、言い換え語として使いやすい。より多くの文脈で使いやすい「優先順位」を言い換え語として、「優先権」を[その他の言い換え語例]とした。

125. フリーランス freelance

「外来語」言い換え提案 (第4回)

	全体	60歳以上
フリーランス	★★★★	★★★★
<b>言い換え語</b>	自由契約	
<b>用例</b>	パソコンやインターネットを使って活動する <u>フリーランス</u> の若い芸術家が多いことから	
<b>意味説明</b>	特定の組織などに所属せず、自由な立場で活動すること	
<b>手引き</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「フリーランサー」の形で、自由な立場で活動する人を指す言い方があり、また、「フリーランス」で人を指す場合もある。こうした場合は、「自由契約者」と言い換えることができる。</li> </ul>	
<b>その他の言い換え語例</b>	自由契約者	

【調査データ】

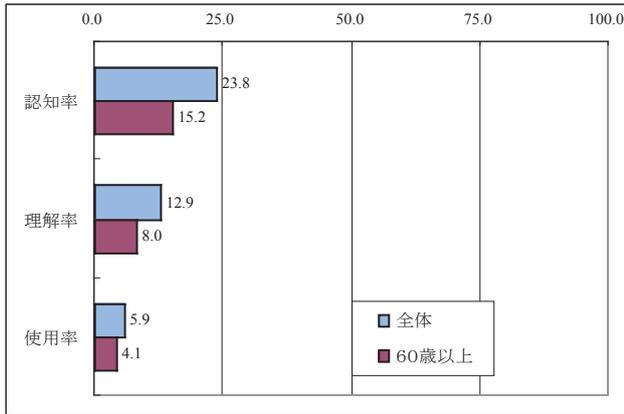


図1 定着度（全体・60歳以上）%

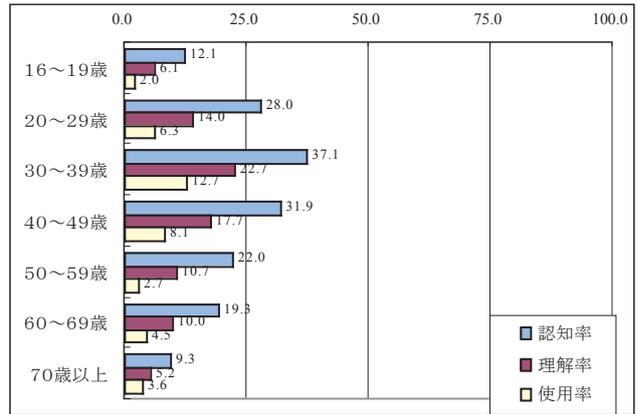


図2 定着度（年齢層別）%

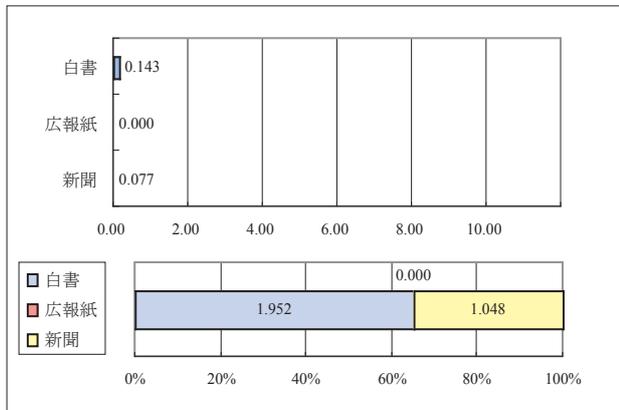


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

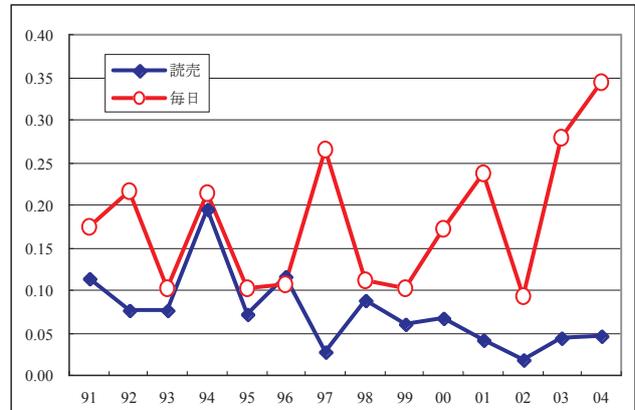


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

○定着度は低い。理解率と使用率の乖離が大きい。

○公共媒体における頻度は低い。

○新聞の頻度推移は、全体を通じてほぼ横ばいであるが、毎日新聞で2003年以後増加している。この増加は、イラク戦争の記事で、フリーランスのジャーナリストが話題になることが多かったことによるものである。

【言い換えの論点】

○なじみのある言葉で言い換えるなら「フリー」になるが、安易に外来語を使うよりも、意味を明示した「自由契約」と言い換えるべきだという意見が強かった。

## 126. ブレークスルー breakthrough

「外来語」言い換え提案（第3回）

ブレークスルー	全体 ★☆☆☆	60歳以上 ★☆☆☆
<b>言い換え語</b>	突破	
<b>用例</b>	要員削減という手法に限界がある以上、技術的な <u>ブレークスルー</u> が「製鉄世界一」の座を死守するための重要な武器といえる。	
<b>意味説明</b>	技術などの行き詰まりを突破すること	
<b>手引き</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 困難な局面を突破することを強調したい場合など、「難関突破」「打開」などの言い換え語が適切になる場合がある。</li> <li>・ 突破することよりも、飛躍的に前進することを表す場合は、「飛躍的前進」「躍進」と言い換えることができる。</li> <li>・ 「ブレークスルーする」の形で用いられる場合は、「突破する」「打開する」「躍進する」と言い換えることができる。</li> <li>・ 「新産業創出へのブレークスルーとなる技術開発」などの形で用いられる場合は、「突破口」と言い換えることができる。</li> </ul>	
<b>その他の言い換え語例</b>	難関突破 打開 飛躍的前進 躍進 突破口	

## 【調査データ】

- 定着度はきわめて低い。
- 公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば低い。白書への偏在度がきわめて高い。
- 新聞の頻度は低く、増減の傾向を見ることはできない。

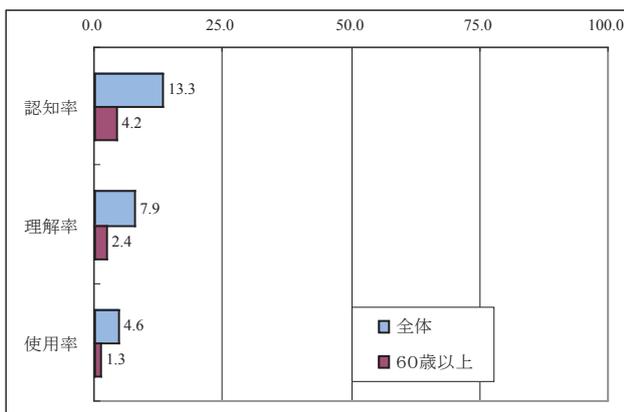


図1 定着度（全体・60歳以上）%

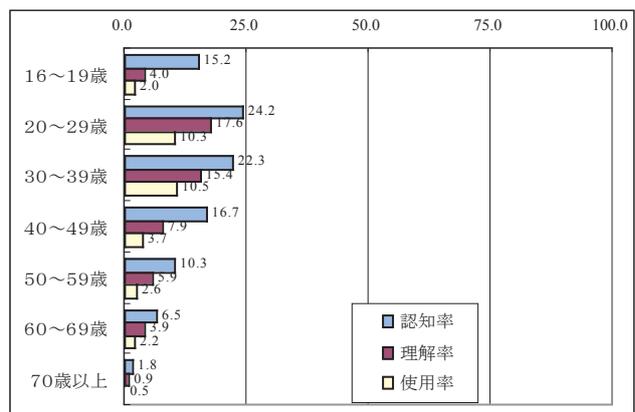


図2 定着度（年齢層別）%

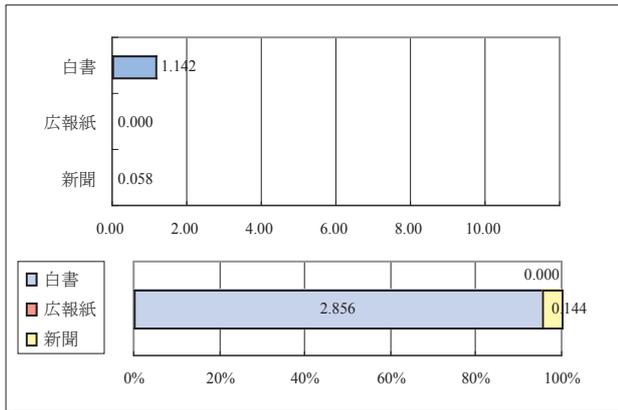


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

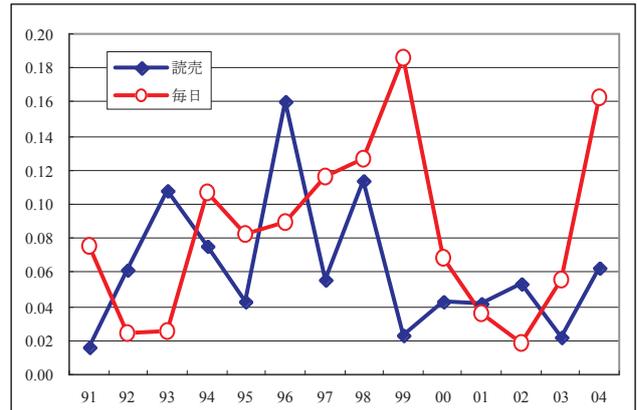


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

【言い換えの論点】

○動詞用法の場合は「突破」が使いやすいが、名詞用法の場合は「難関突破」などの方が使いやすいという意見があった。文脈によってほかにも適切な言い換え語は様々に考えられるので、それらを[その他の言い換え語例]に掲げ、意味によって使い分けることも推奨した。

127. フレームワーク framework

「外来語」言い換え提案(第2回)

全体 ☆☆☆☆ 60歳以上 ☆☆☆☆

フレームワーク

言い換え語 枠組み

用例 インフレ目標政策はルールではなく、金融政策を運営する上での 枠組み を設定するものである。

意味説明 何かを行うときのおおもとになる基本的な枠組み

【調査データ】

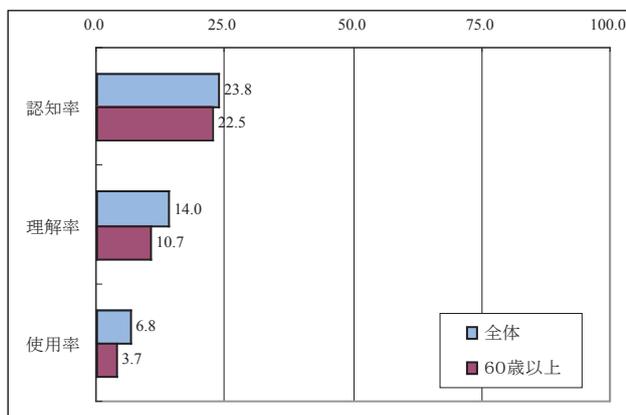


図1 定着度(全体・60歳以上) %

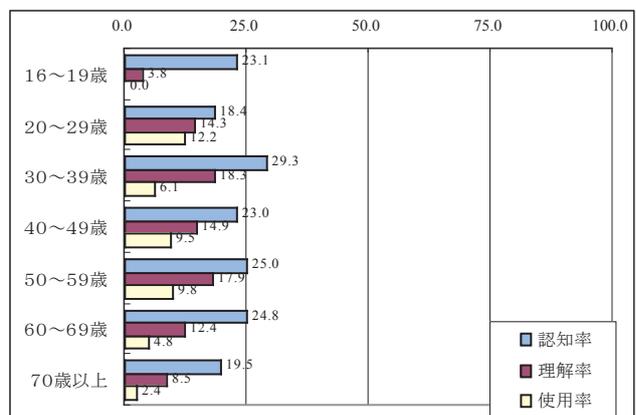


図2 定着度(年齢層別) %

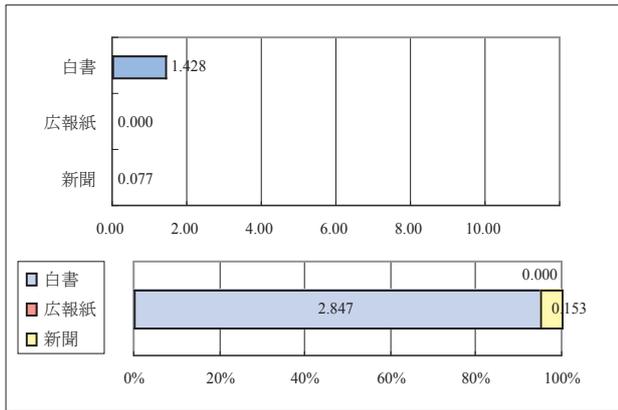


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

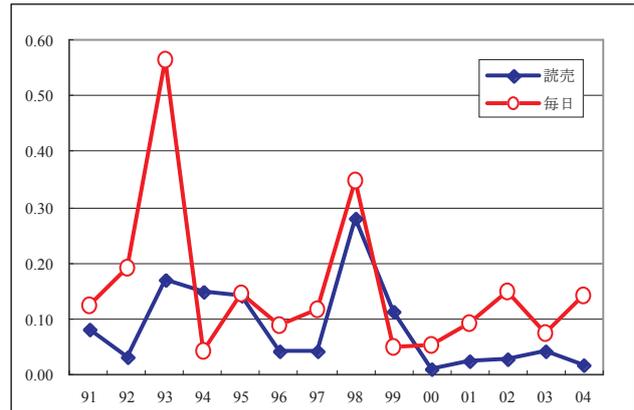


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

- 定着度は低い。理解率と使用率の乖離が大きい。
- 公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば低い。白書への偏在度がきわめて高い。
- 新聞の頻度は、1993年と1998年に突出するが、それぞれ「日米包括経済協議の枠組」、アジア通貨危機の支援策を決めた「マニラ・フレームワーク」に関する報道が多いことによる。それ以外の年は低頻度で、増減の方向は見られない。

【言い換えの論点】

- 白書に偏在するのは、施策の名称に使われる例が多いことによる。言い換え語「枠組み」が、意味も適切であり、実績もある。役所の好む外来語であり、言い換えの必要性が高いと考えた。

→参照 スキーム

# 128. プレゼンス presence

「外来語」言い換え提案 (第3回)

全体	60歳以上
プレゼンス	★★★★ ★★★★★
<b>言い換え語</b>	存在感
<b>用例</b>	我が国の貿易における中国の <u>存在感</u> が急速に高まっている。
<b>意味説明</b>	政治・経済や軍事において、強い組織が与える存在感
<b>手引き</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文脈によっては単に「存在」と言い換える方が分かりやすい場合もある。</li> <li>・ 軍事的な存在感を高める行動を指して使われる場合もあるが、その場合は、「展開」「軍事展開」などの語で言い換えるのも分かりやすい。</li> </ul>
<b>その他の言い換え語例</b>	存在 展開 軍事展開
<b>複合語例</b>	軍事プレゼンス = 軍事展開

【調査データ】

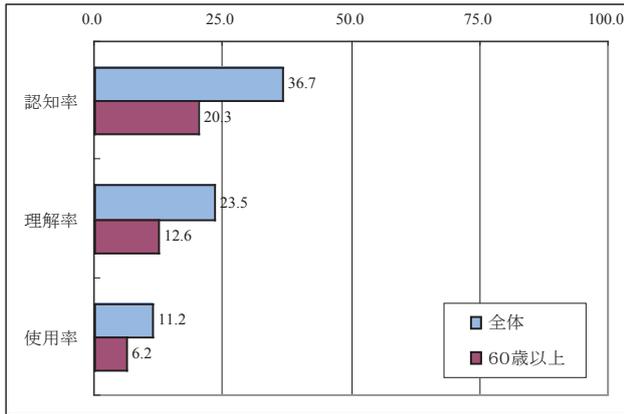


図1 定着度（全体・60歳以上）%

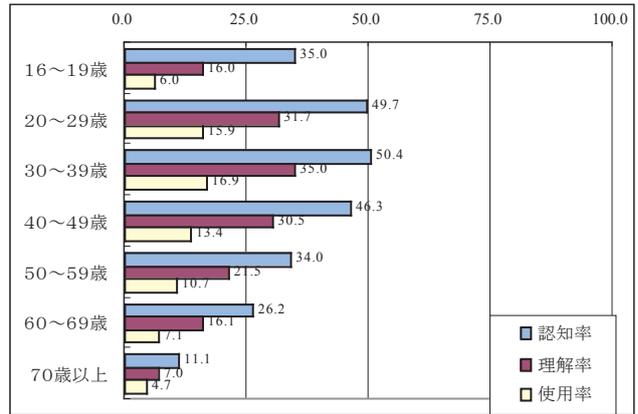


図2 定着度（年齢層別）%

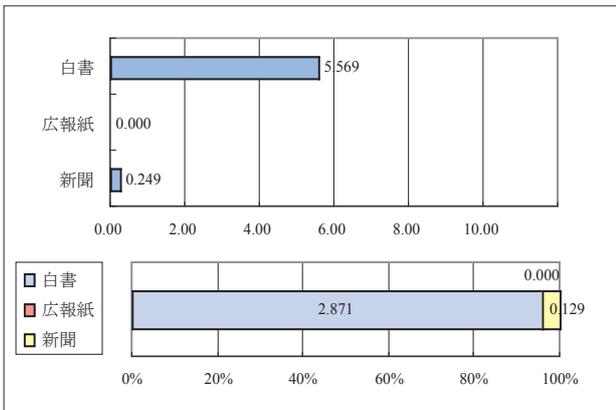


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

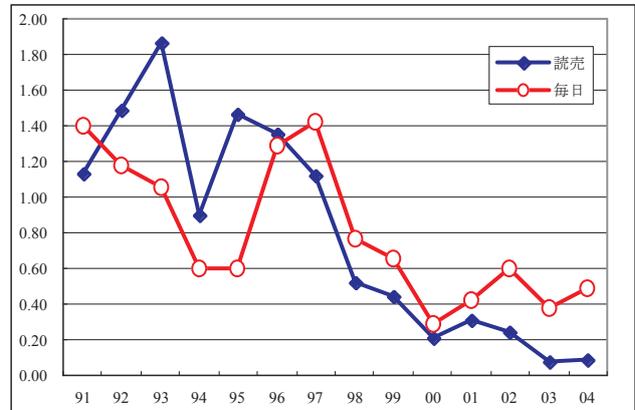


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

- 定着度は低い。理解率と使用率の乖離が大きい。
- 公共媒体における頻度はやや高い。白書への偏在度がきわめて高い。
- 新聞の頻度は年によってやや起伏があるが、全体としては減少の方向にある。新聞の頻度が高い年は日米安保に関する議論が盛んになった年など、外交上の事情によるものである。

【言い換えの論点】

- 軍事の場合とそれ以外の場合とで、文脈の特徴はやや異なる。これを、別々の言い換え語で区別する方が分かりやすいという意見と、一つの言い換え語でまとめる方が分かりやすいという意見とがあった。両方の場合に適用できる「存在感」を言い換え語で示し、文脈的な特徴がはっきりしている軍事の場合にのみ適用できる「展開」を[その他の言い換え語例]に示し、使い分けの効果を[手引き]に記した。

# 129. プレゼンテーション presentation

「外来語」言い換え提案（第1回）

全体 ★★★☆ 60歳以上 ★★★☆☆

プレゼンテーション

**言い換え語** 発表

**用例** 当日は、論文審査を経た5組10人の大学生が参加し、前半に発表、後半に討論を行う。

**意味説明**  
企画や計画などを分かりやすく発表すること

**手引き**

- ・「プレゼン」という略語もあり、この語が定着しつつある分野もあるが、分かりにくいと感じる向きもある。一般向けには、言い換えたり説明を付けたりすることが必要である。
- ・文脈に応じて、その他の言い換え語例に示すような、他の単純な語で言い換えることができる場合も多い。
- ・指し示す内容によって、「提案説明」「売り込み説明」「招致演説」「企画提示」などと、発表の内容を具体的に表す語で言い換えることも効果的である。

**その他の言い換え語例** 説明 提示 提案

【調査データ】

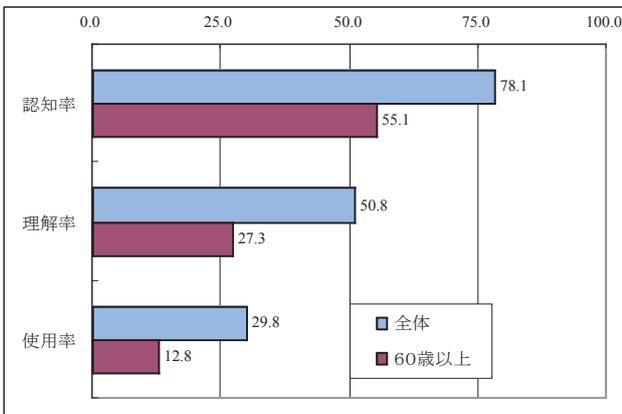


図1 定着度（全体・60歳以上）%

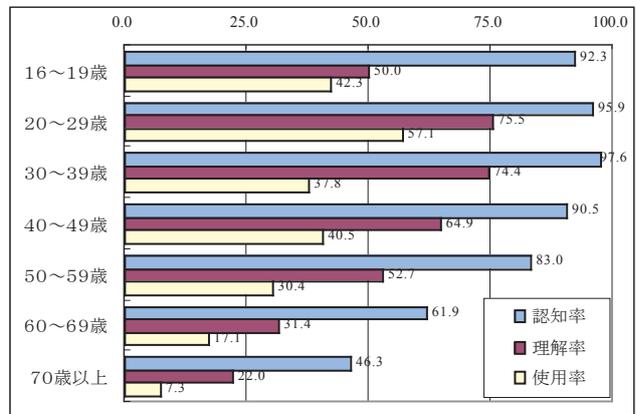


図2 定着度（年齢層別）%

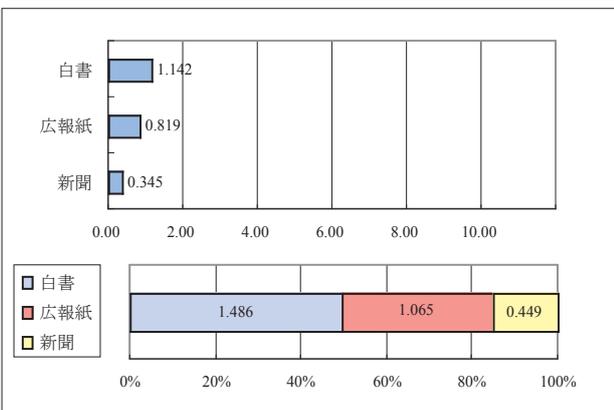


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

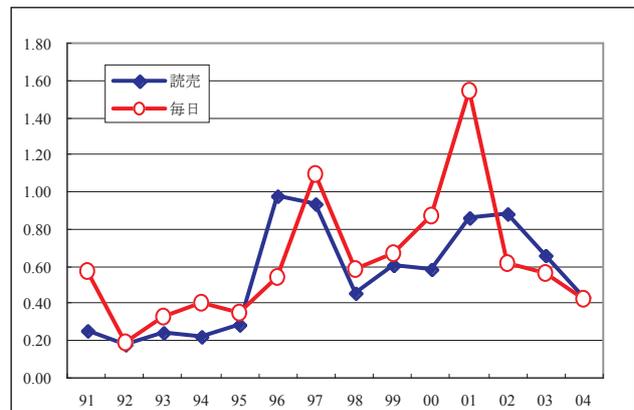


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

- 定着度は中程度だがどちらかといえば高い。認知率と理解率の乖離が大きい。年齢層による差異が大きい。60歳代が低い。
- 公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば高い。
- 新聞の頻度は、2001年頃まで増加の方向にあり、その後減少に転じている。

【言い換えの論点】

- 「発表」では言い換えられない文脈でも、[その他の言い換え語例]に挙げる語で、単純に言い換えられる場合が多い。「プレゼンテーション」も定着しつつあるが、外来語を使う必要のないときには言い換えることが望ましい場面も多いので、提案に含めることとした。

## 130. フレックスタイム flexitime

「外来語」言い換え提案（第1回）

全体 ★★★☆☆    60歳以上 ★☆☆☆☆

**フレックスタイム**

**言い換え語**    自由勤務時間制

**用例**    全職員が一斉に始業することに慣れてきた日本企業にとって、自由勤務時間制、フレックスタイムの取り扱いは難しい面もあるようだ。

**意味説明**    始業や終業の時間を従業員が自由に選択できる就業方法

**手引き**

- ・ サラリーマンにはなじみの深い制度名であるが、サラリーマン以外には余り知られていない。相手や場面によっては、情報の受け手に配慮し、言い換えたり説明を付けたりすることが必要な場合もある。
- ・ この制度において、自由に選択できる時間帯を指して「フレキシブルタイム」というが、「選択時間帯」などと言い換えられる。必ず勤務しなければならない時間帯を指す「コアタイム」[⇒45]は、「拘束時間帯」と言い換えられる。

**その他の言い換え語例**    時差勤務

**複合語例**    フレックスタイム制（度）＝自由勤務時間制（度）

【調査データ】

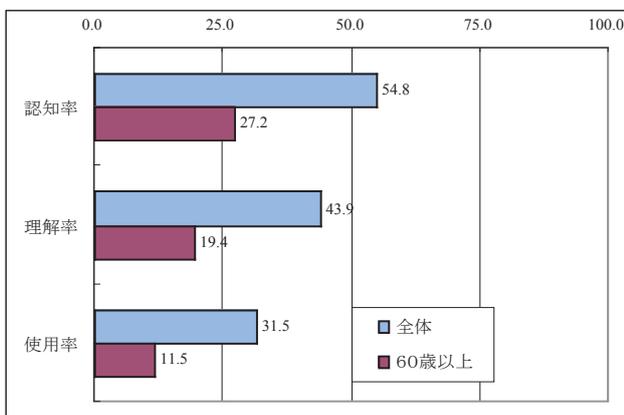


図1 定着度（全体・60歳以上）%

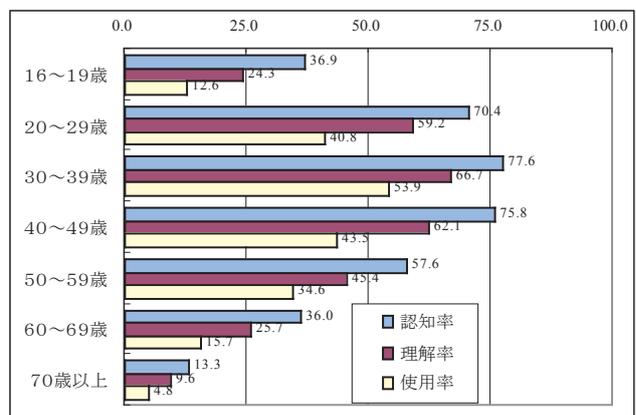


図2 定着度（年齢層別）%

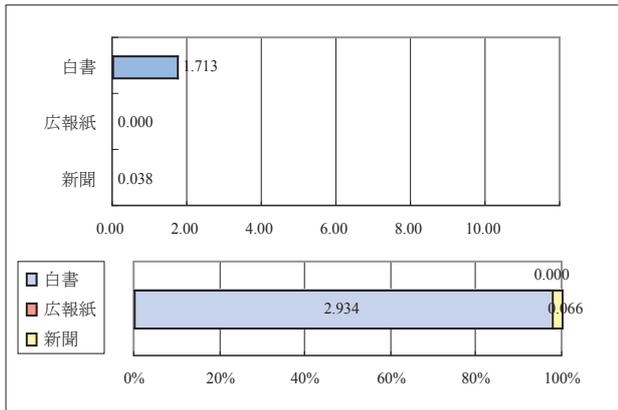


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

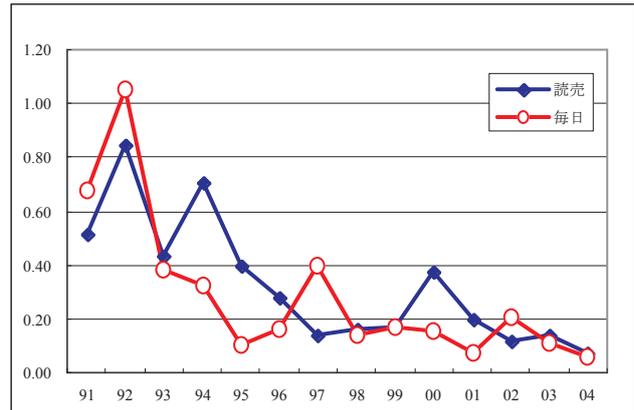


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

- 定着度は中程度だがどちらかといえば低い。年齢層による差異が大きい。30歳代が高く、60歳代が低い。
- 公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば低い。白書への偏在度がきわめて高い。
- 新聞の頻度推移は、1992年に増加した後は、全体として減少傾向にある。

【背景事情】

- 1987年の労働基準法改正により、1988年に制度化され、1990年頃までは、企業の取組などが新聞などで話題になったと考えられる。1992年の頻度の増加は、公務員の一部にこの制度を導入することが議論されたことによるものである。制度の定着とともに、新聞などで話題になることが減少してきていると考えられる。

【言い換えの論点】

- 制度の名称であり、「フレックスタイム」の呼び名で普及が図られ、成果があったので、言い換えない方がよいという意見があった。一方、サラリーマン以外にはなじみのない概念であり、多くの人に意味を伝えるために、言い換えや説明が必要だという意見もあり、この立場で提案を行った。

# 131. プロトタイプ prototype

「外来語」言い換え提案(第1回)

	全体	60歳以上
プロトタイプ	★☆☆☆	★☆☆☆
言い換え語	原型	
用例	新しい自然と都市の関係を <u>原型</u> プロトタイプとして示していきたい。	
意味説明	同類のもの、おおもとになる型	
手引き	・製品などで量産前の試作品を指す場合は、「試作モデル」「試作品」などが分かりやすい。	
その他の言い換え語例	試作モデル 試作品	
複合語例	プロトタイプカー = 試作車	

【調査データ】

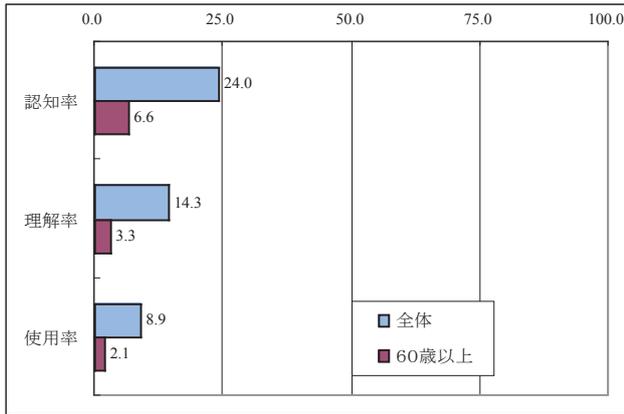


図1 定着度（全体・60歳以上）%

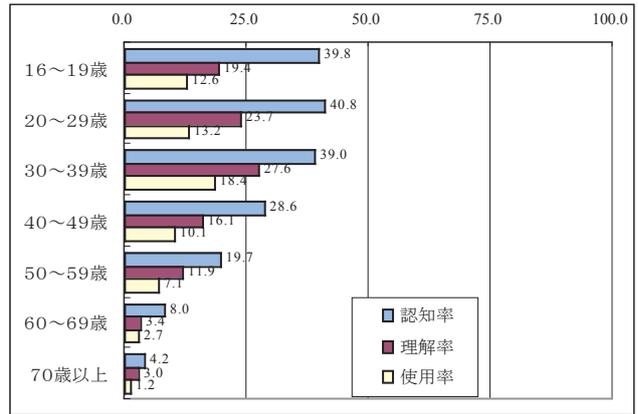


図2 定着度（年齢層別）%

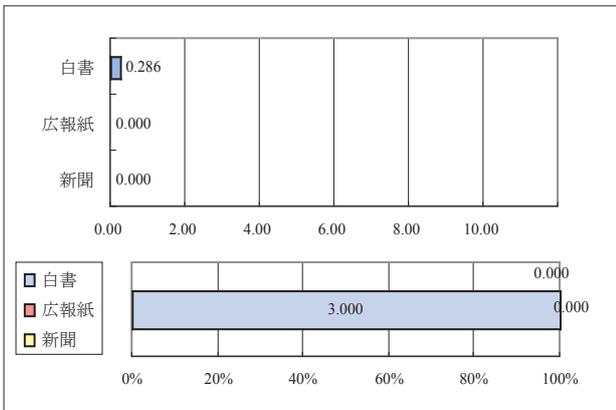


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

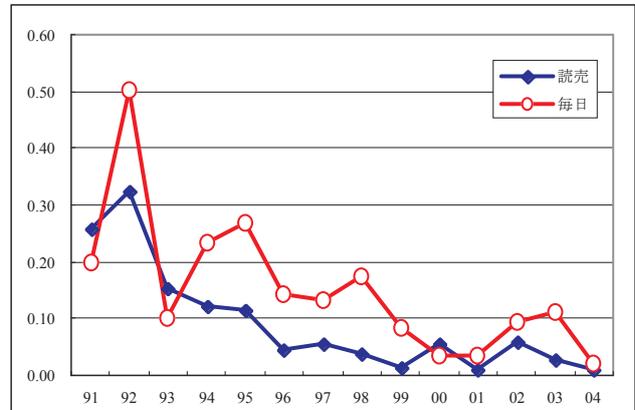


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

- 定着度は低い。
- 公共媒体における頻度は低い。白書への偏在度が高い。
- 新聞の頻度は、全体として減少の方向にある。新聞で1995年頃までの頻度が高いのは、「プロトタイプカー」の用法が多かったことによる。この用法は、1996年以後姿を消す。

【言い換えの論点】

- 言い換え語を「原型」とすることは、意味の面から異論がなかった。工業製品で、商品化の前の最終段階のものについては、特に区別して「試作品」「試作モデル」と言い換えるのが分かりやすいという意見と、それも含めて「原型」でよい、という意見とに分かれた。「原型」ひとつを言い換え語とし、「試作品」「試作モデル」を使う場合は、[手引き]で記した。

## 132. フロンティア frontier

## 「外来語」言い換え提案（第3回）

全体 ★★☆☆ 60歳以上 ★★☆☆

フロンティア

**言い換え語** 新分野

**用例** その手法を用いたフロンティアの開拓が様々な分野から要請されている。

**意味説明**  
豊かな可能性を秘めた、未開拓の分野

**手引き**  
・開拓されつつある最先端の領域を指す場合は、「最前線」「最先端」などと言い換えたり説明を付けたりすることができる。

**その他の言い換え語例** 最前線 最先端

**複合語例** フロンティアスピリット = 開拓者精神  
フロンティアスクール = 最先端の学校

## 【調査データ】

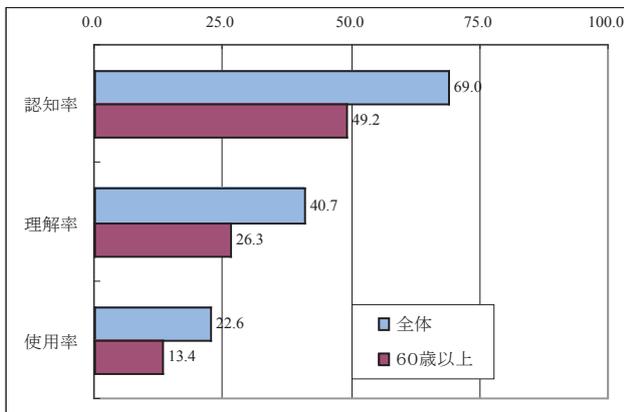


図1 定着度（全体・60歳以上）%

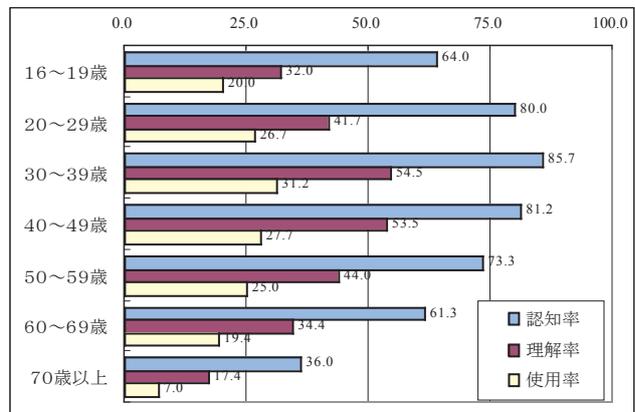


図2 定着度（年齢層別）%

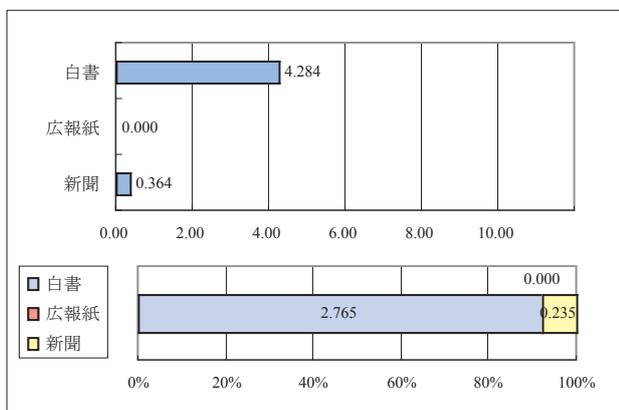


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

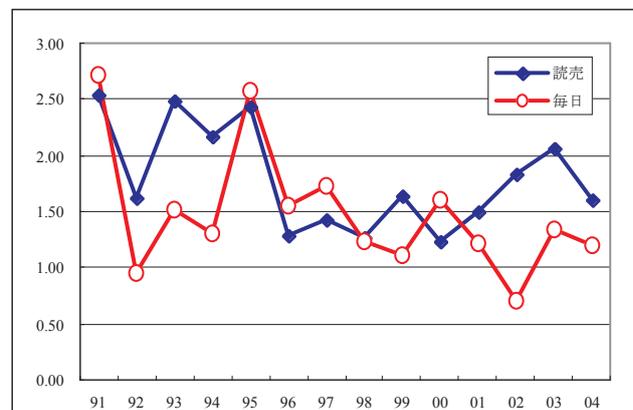


図4 新聞14年間の頻度推移（出現率）

- 定着度は中程度だがどちらかといえば低い。認知率と理解率の乖離が大きい。
- 公共媒体における頻度はやや高い。白書への偏在度が高い。
- 新聞の頻度推移は、全体としてほぼ横ばいである。

【言い換えの論点】

○ 言い換え語を、「最前線」「最先端」などの、線あるいは点としてとらえる語とするか、「新分野」「未開拓領域」などの面としてとらえる語とするか、で意見が分かれた。外来語「フロンティア」の使われ方を見ると、「～を開拓する」「～が広がる」など、面としてとらえた例が多いので、後者の意見を採用した。「新分野」と「未開拓領域」では、前者の方が語形も短くイメージもよいと考えた。

### 133. ベンチャー venture

「外来語」言い換え提案（第2回）

ベンチャー	全体 ★★☆☆	60歳以上 ★★☆☆
言い換え語	新興企業	
用例	骨の再生医療分野に特化した <b>ベンチャー</b> は日本では初めてという。	
意味説明	大企業が行っていない分野で、新たな事業を起こす中小規模の企業	
手引き	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 新たに事業を起こすことを指す場合は「起業」、その人を指す場合は「起業家」と言い換えることができる。</li><li>・ 様々な語と組み合わせさせて多様な複合語を構成するが、複合語例に示すように、言い換え語には工夫が必要になる。</li></ul>	
その他の言い換え語例	起業 起業家	
複合語例	ベンチャー企業 = 新興企業 ベンチャービジネス = 新興ビジネス ベンチャー精神 = 起業精神 ベンチャー支援 = 起業支援 ベンチャーキャピタル = 起業投資 起業投資会社 ジョイントベンチャー = 共同企業体	

【調査データ】

- 定着度は中程度だがどちらかといえば低い。認知率と理解率の乖離がかなり大きい。
- 公共媒体における頻度は高い。白書への偏在度がやや高い。
- 新聞の頻度推移は、2000年まで増加の方向にあり、それ以後減少に転じる。

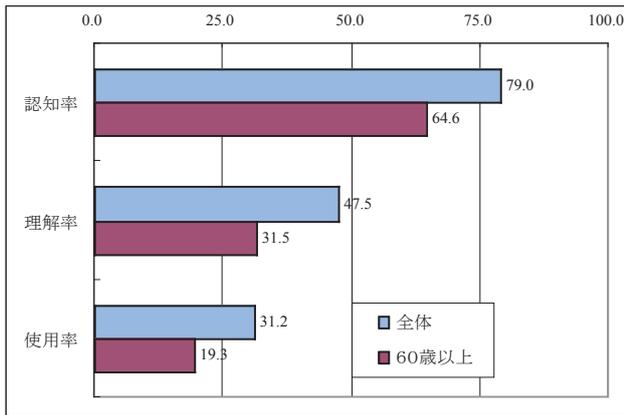


図1 定着度（全体・60歳以上）%

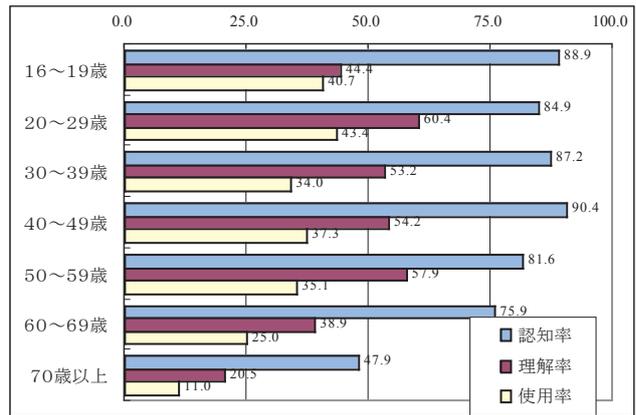


図2 定着度（年齢層別）%

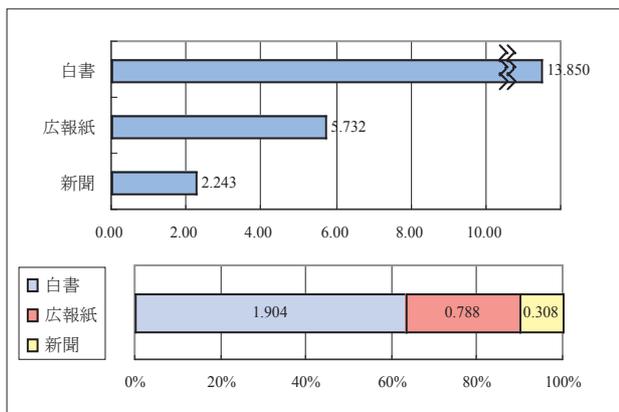


図3 公共媒体における頻度（出現率）と偏り（特化係数）

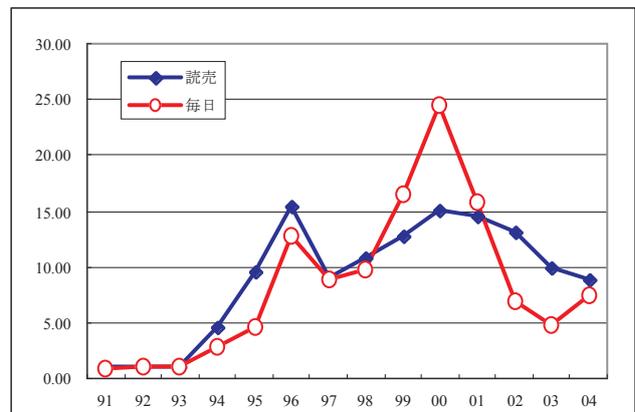


図4 新聞14年間の頻度推移（出現率）

【言い換えの論点】

○ 複合語が多彩で、言い換え語も、それに応じて変えていく必要がある。タイプの異なる複合語を、[複合語例] に掲げて、言い換えの工夫を記した。

134. ボーダーレス borderless

「外来語」言い換え提案（第2回）

	全体	60歳以上
ボーダーレス	★★☆☆	★☆☆☆
<b>言い換え語</b>	無境界 脱境界	
<b>用例</b>	政党としての独自性などという言葉が聞かれなくなるほど政党は <b>ボーダーレス</b> の時代を迎えている。 不況から抜け出せない時代を象徴した芥川賞、 <b>脱境界</b> <b>ボーダーレス</b> が進む多民族社会を描いた直木賞と、それぞれに現代に生きる人間を切り取った作品だ。	
<b>意味説明</b>	境界が薄れて存在しない様子。また、そのようになること。	
<b>手引き</b>	・境界がなくなった様子という場合は「無境界」、境界の意識が弱くなる事柄をいう場合は「脱境界」と言い換えるのが、望ましい。	

- ・「ボーダーレスな」「ボーダーレスの」の場合は、「境界のない」と言い換えることもできる。
- ・国と国の境界をいう場合は、「無国境」「脱国境」「国境なし」などと言い換えるのも分かりやすい。

**その他の言い換え語例** 境界なし 無国境 脱国境 国境なし

**複合語例** ボーダーレス化 = 無境界化 無国境化 脱境界 脱国境

【調査データ】

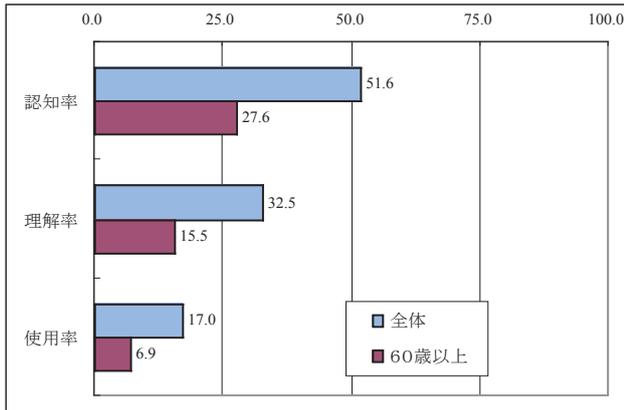


図1 定着度（全体・60歳以上）%

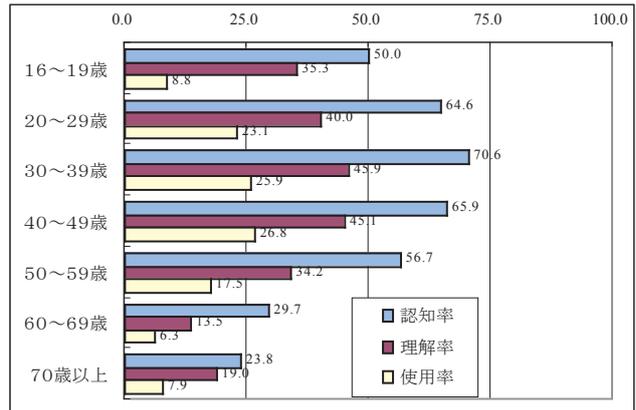


図2 定着度（年齢層別）%

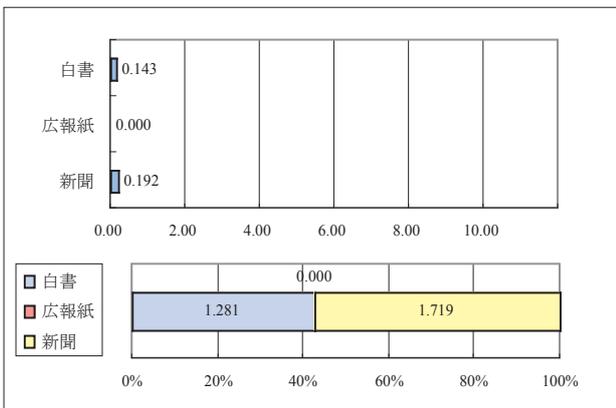


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

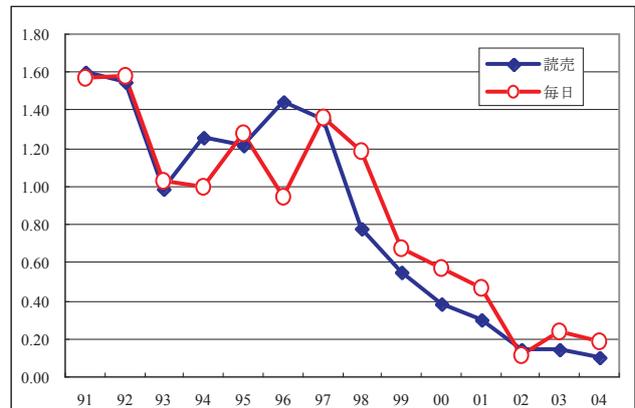


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

- 定着度はやや低い。60歳代が特に低い。
- 公共媒体における頻度はやや低い。
- 新聞の頻度は、1990年代後半から、急速に減少する方向にある。

【背景事情】

- ベルリンの壁の崩壊などを機に、従来の国境を越えた政治や経済の動きが活発化することを表す語として、1990年代前半によく使われた。1990年代以後は、「グローバル」という語の伸張と交替するようにして、新聞などでは使われなくなってきた。

【言い換えの論点】

- 境界がない状態と、境界がなくなることと、両方を表すことがあるので、「無境界」と「脱境界」とを並記した。より基本的な意味は、状態を表す場合であるので、「無境界」だけでよいという意見もあった。

→参照 グローバル

# 135. ポートフォリオ portfolio

「外来語」言い換え提案（第3回）

全体 ☆☆☆☆ 60歳以上 ☆☆☆☆

ポートフォリオ

**言い換え語** (1) 資産構成 (2) 作品集

**用例** (1) 保有銘柄の運用成績、現金残高などを示した**ポートフォリオ**が画面上で確認でき  
 (2) 写真家二十四人の作品を集め、**ポートフォリオ**を販売して

**意味説明**  
 (1) 投資を配分してできた資産の、組合せ。また、その投資の配分。  
 (2) 図画や文章などの作品を集めたもの

**手引き**  
 ・本来は「紙ばさみ」を意味する語で、紙の資産（株券など）や作品（図画や文章など）を束ねたものを指すところから、(1)(2)の二つの意味に分かれて、使われている。  
 ・(1)は、配分した資産の組合せを指す場合は「資産構成」、配分することを指す場合は「投資配分」と、言い換え語を使い分けることもできる。

**その他の言い換え語例** (1) 投資配分

【調査データ】

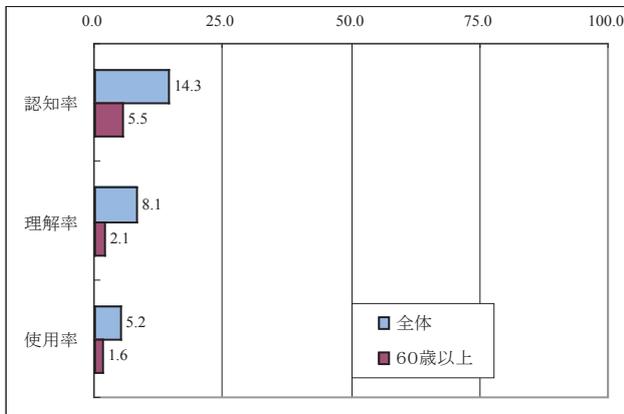


図1 定着度（全体・60歳以上）%

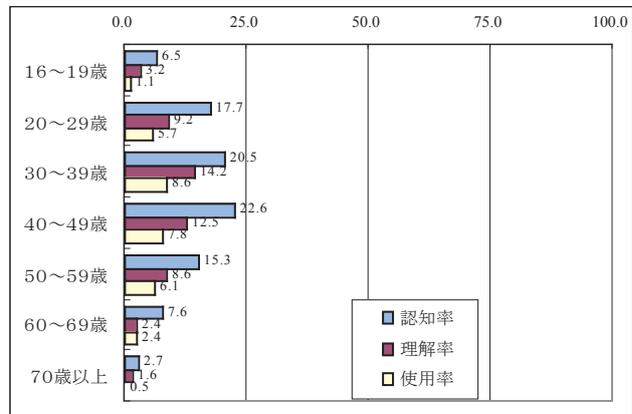


図2 定着度（年齢層別）%

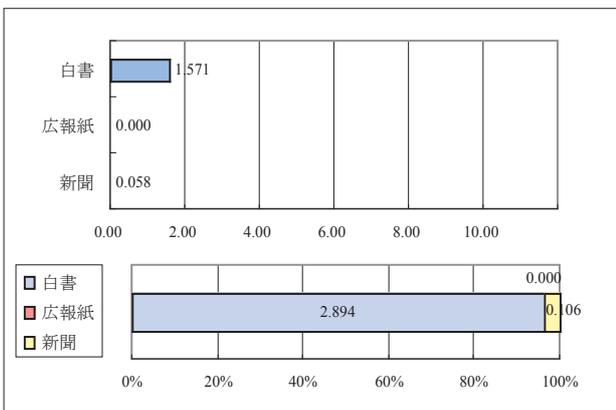


図3 公共媒体における頻度（出現率）と偏り（特化係数）

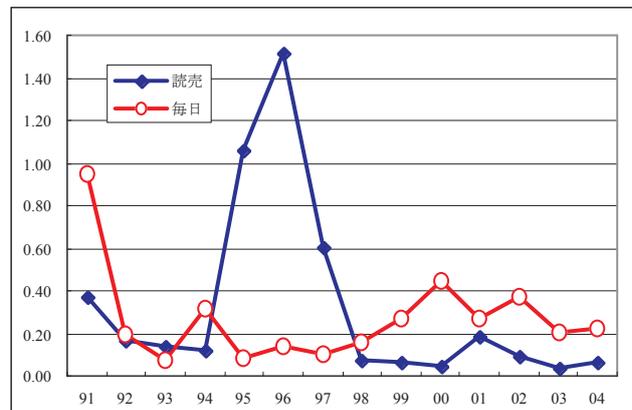


図4 新聞14年間の頻度推移（出現率）

- 定着度はきわめて低い。
- 公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば低い。白書への偏在度がきわめて高い。
- 新聞の頻度は、読売新聞の1995～1997年のみが突出する。これは、この時期「ポートフォリオマネージャー」を肩書きにもつ著者のコラムが連載されていたことによるものである。この時期以外では、低頻度のまま増減の傾向はない。

【言い換えの論点】

- 原義は「紙ばさみ」の意味だが、公共媒体の用例の大半は（1）の語義で、時々（2）の語義で使われている。原義を言い換えるのではなく、二つの語義を区別して言い換える方が分かりやすいと考えた。

## 136. ポジティブ positive

「外来語」言い換え提案（第1回）

全体	★★☆☆
60歳以上	★☆☆☆
<b>言い換え語</b>	積極的
<b>用例</b>	抗議という <u>積極的</u> な行動に出られない人なら、なおさら深刻である。
<b>意味説明</b>	態度や考え方が積極的である様子
<b>手引き</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文脈によっては、「肯定的」「前向き」などの言い換え語が適当になることもある。</li> <li>・反意語に「ネガティブ」があるが、「消極的」「否定的」などと言い換えることができる。</li> </ul>
<b>その他の言い換え語例</b>	肯定的 前向き

【調査データ】

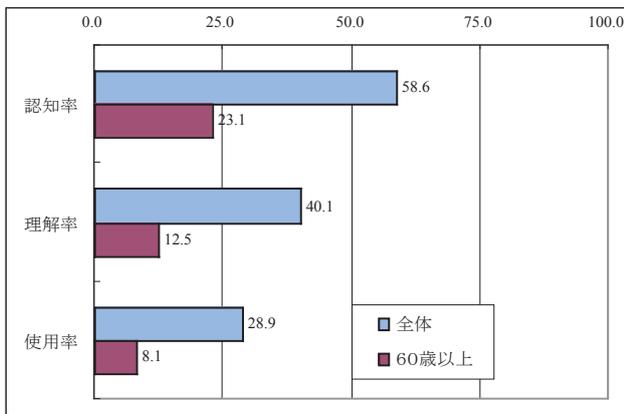


図1 定着度（全体・60歳以上）%

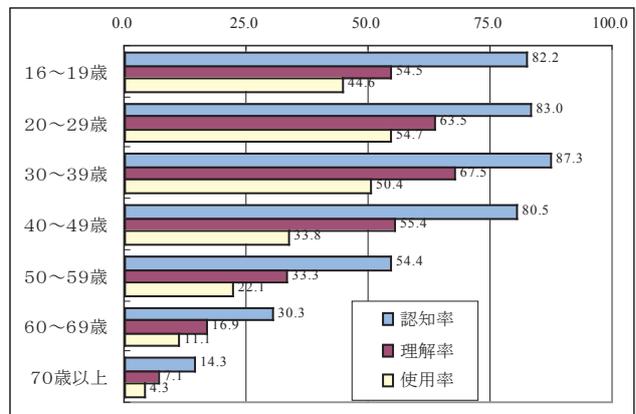


図2 定着度（年齢層別）%

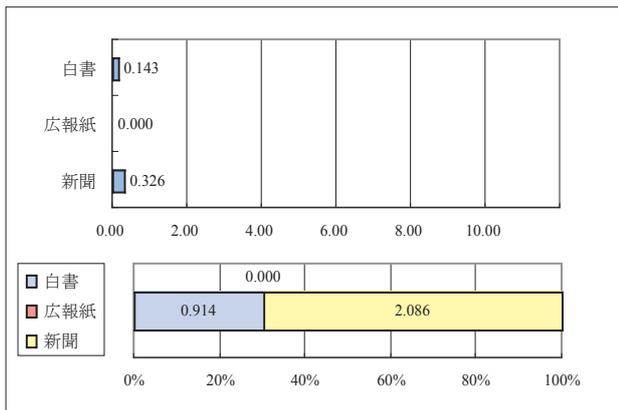


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

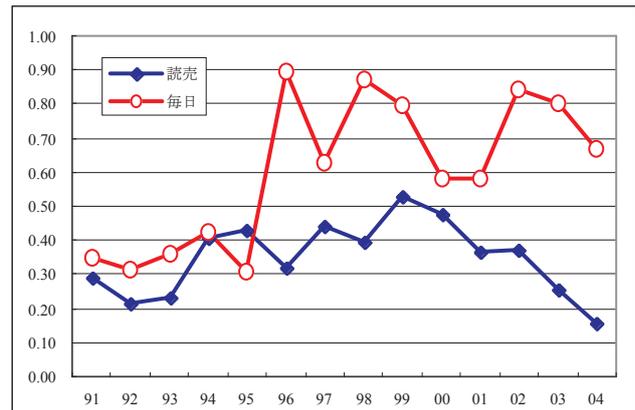


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

- 定着度は中程度だがどちらかといえば低い。年齢層による差異が大きい。30歳代が高く、60歳代が特に低い。
- 公共媒体における頻度はやや低い。新聞への偏在度がやや高い。
- 新聞の頻度は、1990年代は増加の方向にあったが、2002年以後に横ばい、もしくは減少の方向にあるように見える。1990年代後半から2002年頃には、男女共同参画に関わる施策名「ポジティブ・アクション」の例が多い。この用法を除けば、全体を通してほぼ横ばいである。

【言い換えの論点】

- 「積極的」「前向き」「肯定的」など、言い換えは、たやすいはずであるが、使いやすさから外来語を使っている現状がある。文脈に応じた言い換えの必要性を提案すべきだと考えた。

# 137. ポテンシャル potential

「外来語」言い換え提案(第2回)

	全体	60歳以上
ポテンシャル	★☆☆☆	★☆☆☆
<b>言い換え語</b>	潜在能力	
<b>用例</b>	学力だけで判定するのは、一見公平に見えるが、そこで問われるのは理解力であり、人間の潜在能力ポテンシャルとして大切な認識力が全く問われない。	
<b>意味説明</b>	潜在的に持っている可能性としての力	
<b>手引き</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「成長ポテンシャル」「発展ポテンシャル」「開発ポテンシャル」「回復ポテンシャル」など、将来的展望を表す複合語の場合には「可能性」と言い換えてもよい。</li> <li>・「ポテンシャルな」の形で用いられるときは、「潜在的な」と言い換えられる。</li> </ul>	
<b>その他の言い換え語例</b>	可能性 潜在力 潜在的	

【調査データ】

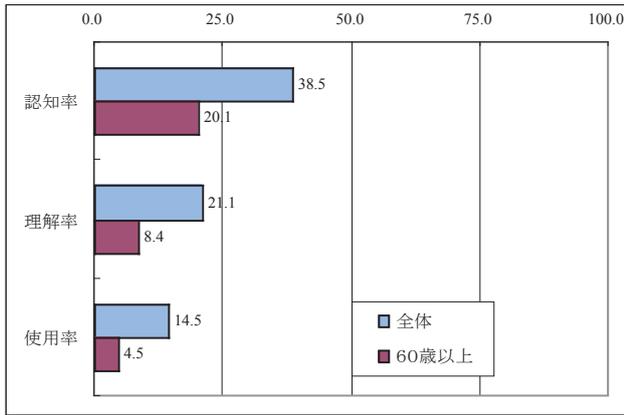


図1 定着度（全体・60歳以上）%

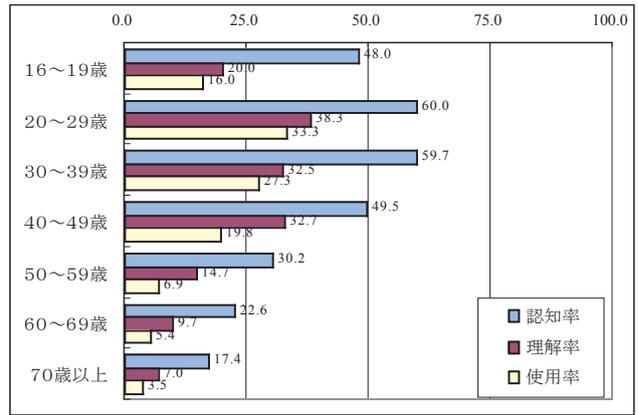


図2 定着度（年齢層別）%

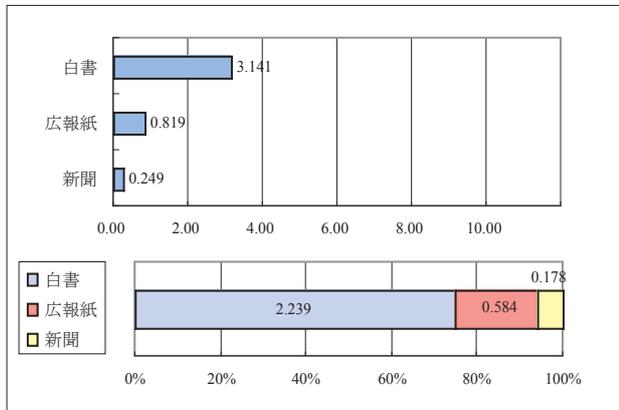


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

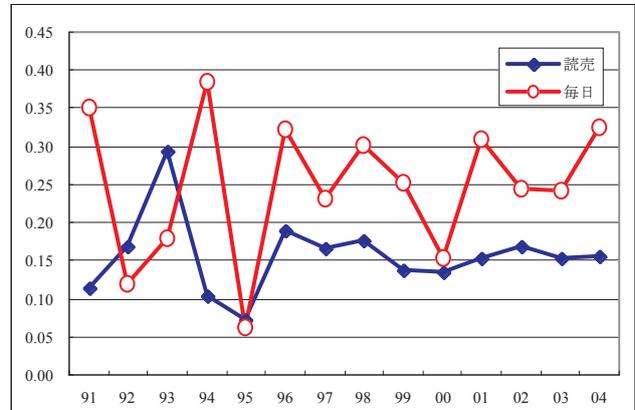


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

- 定着度は低い。
- 公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば高い。白書への偏在度がやや高い。
- 新聞の頻度は全体を通して低く、増減の方向は見て取れない。

【言い換えの論点】

- 「潜在的に持っている可能性としての力」という意味のうち、「力」に焦点のある使われ方と、「可能性」に焦点のある使われ方と、二種類の用法がある。後者が本来的な意味であると見て、「潜在能力」を言い換え語とし、「可能性」は[その他の言い換え語例]とした。

## 138. ボトルネック bottleneck

「外来語」言い換え提案（第3回）

ボトルネック	全体 ★☆☆☆	60歳以上 ★☆☆☆
<b>言い換え語</b>	支障	
<b>用例</b>	交通の分野では、経済・社会発展の <b>ボトルネック</b> を生じさせないための輸送力の拡大が最優先の課題であった。	
<b>意味説明</b>	進行の妨げになるものや場所	
<b>手引き</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ボトル」は瓶、「ネック」は首を指し、本来の意味は、瓶の首の細くなったところ。流れが滞る場所という本来の意味を生かせば、「隘路<sup>あいろう</sup>」という言い換え語が適切である。</li> <li>・ただし、「隘路<sup>あいろう</sup>」の「隘」は、常用漢字外の難解な漢字であり、読み仮名を付けたとしても意味が伝わりにくい可能性がある。分かりやすさを重視すれば、「支障」という言い換え語を使う方が適切な場合が多い。</li> <li>・文脈によっては「障害」「妨げ」と言い換える方が分かりやすい場合もある。</li> <li>・「ネック」という略した形で使われることも多いが、分かりにくい。</li> </ul>	
<b>その他の言い換え語例</b>	隘路 <sup>あいろう</sup> 障害 妨げ	
<b>複合語例</b>	ボトルネック踏切 = 交通の支障になる踏切 ボトルネック橋梁 <sup>きょうりょう</sup> = 治水の支障になる橋梁	

## 【調査データ】

- 定着度はきわめて低い。認知率と理解率の乖離が大きい。
- 公共媒体における頻度はやや高い。白書への偏在度がきわめて高い。
- 新聞の頻度はきわめて低く、増減の方向は見取れない。

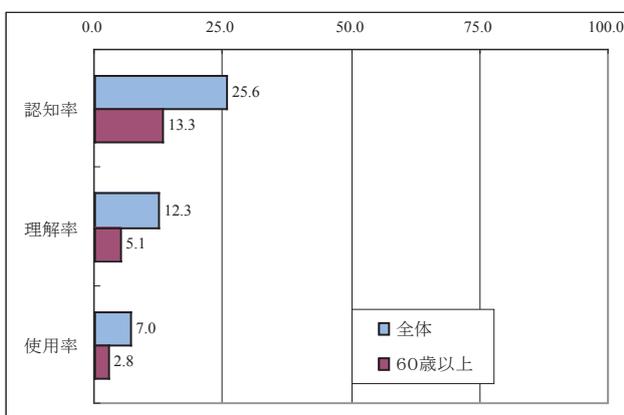


図1 定着度（全体・60歳以上）%

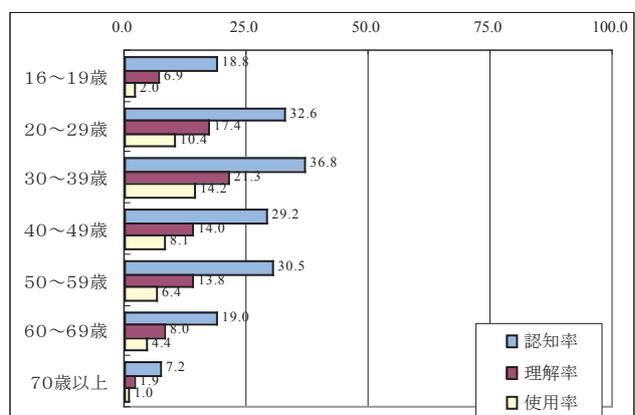


図2 定着度（年齢層別）%

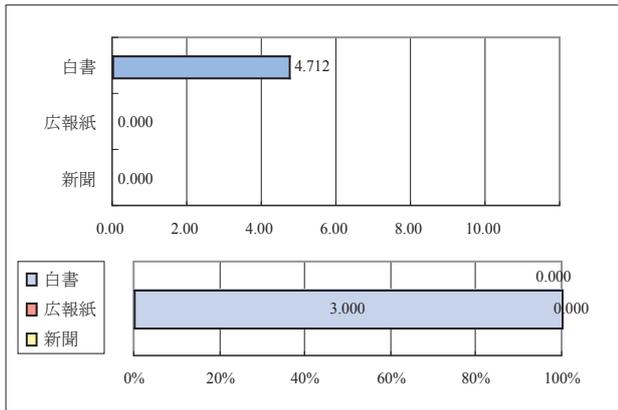


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

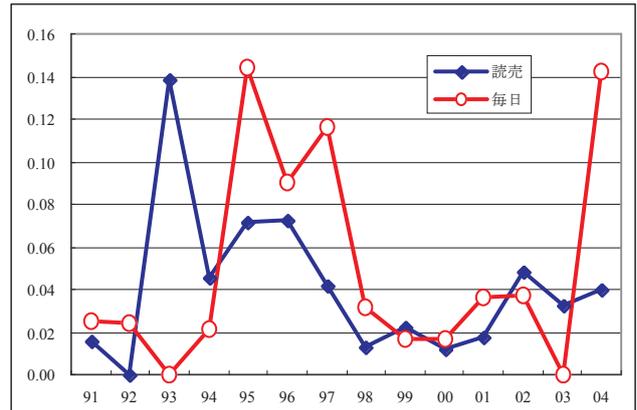


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

【言い換えの論点】

○本来の意味をよく表し、具体的文脈で置き換える言葉としても「隘路」という言い換え語が適切だという意見は強かった。しかし、「隘路」は難解な言葉としてなじみのない人が多いと考えられる。分かりやすくないなじみのある言葉として、「支障」を言い換え語とした。

# 139. マーケティング marketing

「外来語」言い換え提案 (第2回)

	全体	60歳以上
マーケティング	★★★★☆	★★☆☆☆
<b>言い換え語</b>	市場戦略	
<b>用例</b>	販売競争の激化が続く昨今の状況下にあつては、 <u>マーケティング</u> の重要性がいわれているが	
<b>意味説明</b>	販売拡大を目的として、市場に対して戦略的に取り組むこと	
<b>手引き</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市場戦略に基づき行動を起こす場合は「市場活動」、市場での調査や分析を行う場合は「市場調査」「市場分析」などが適切になる。</li> <li>定着に向かっている語だと思われ、「マーケティング」をそのまま用いることにさほど問題のない場面も多いと思われる。ただし、60歳以上では半数以上が分からない語であり、言い換えや説明付与が望まれる場合も多い。</li> </ul>	
<b>その他の言い換え語例</b>	市場活動 市場調査 市場分析	
<b>複合語例</b>	マーケティングリサーチ = 市場調査	

【調査データ】

- 定着度は中程度だがどちらかといえば高い。年齢層による差異が大きい。
- 公共媒体における頻度は高い。白書への偏在度がやや高い。
- 新聞の頻度推移は、毎日新聞で、2000～2001年に小さな山があるが、全体を通してほぼ横ばいである。

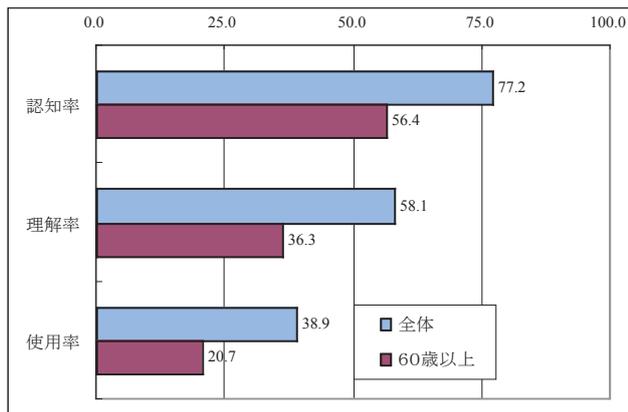


図1 定着度 (全体・60歳以上) %

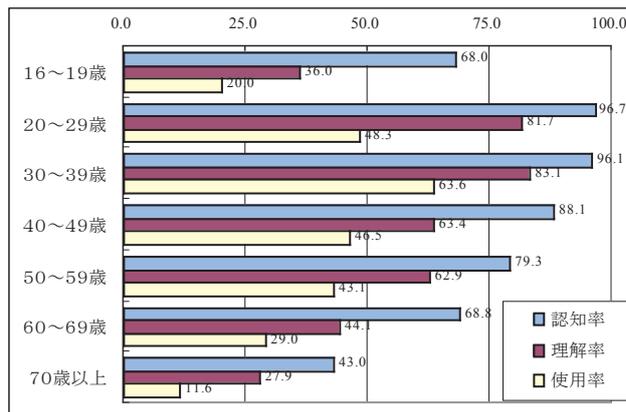


図2 定着度 (年齢層別) %

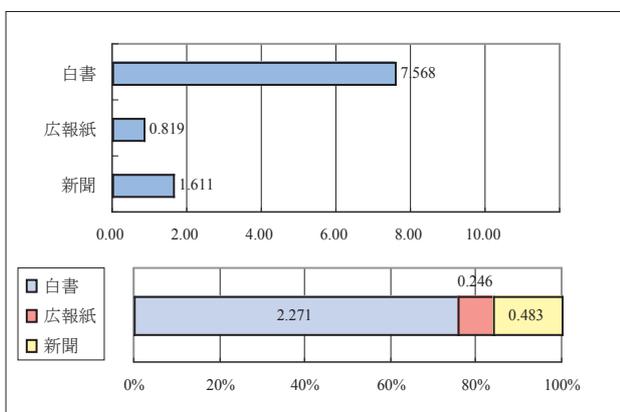


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)



図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

【言い換えの論点】

○用例中の「マーケティング」の語を言い換える場合、「市場活動」「市場調査」「市場分析」などが適切になる例は多いが、いずれも意味の核心を表せないという問題があった。「マーケティング」の本質を、市場に戦略的に取り組むことであるととらえることで、上記三つの言葉の意味を、より深い次元でまとめることができると考えた。その意味を表す「市場戦略」を、言い換え語に採った。

140. マクロ macro

「外来語」言い換え提案 (第2回)

	全体	60歳以上
マクロ	★★☆☆	★★☆☆
<b>言い換え語</b>	巨視的	
<b>用例</b>	巨視的なマクロの財政金融政策の動向について分析した。	
<b>意味説明</b>	全体的な見地からものごとを見る様子	
<b>手引き</b>	・「マクロの」は、用例に見るように「巨視的な」と言い換えることができる。「マクロで」は、「巨視的に」と言い換えられる。	

・反意語の「ミクロ」は「微視的」と言い換えられる。

**複合語例**    マクロ的 = 巨視的  
                  マクロ面 = 巨視的側面

【調査データ】

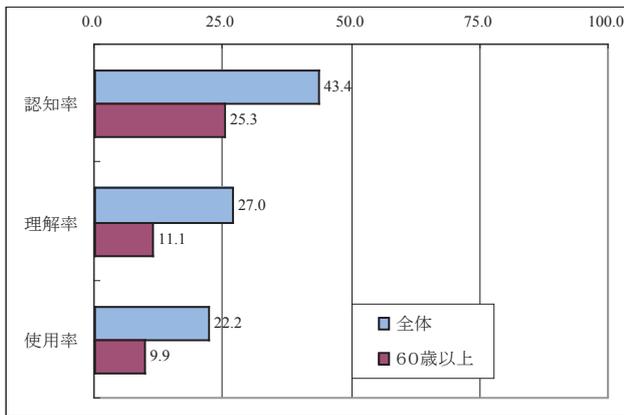


図1 定着度（全体・60歳以上）%

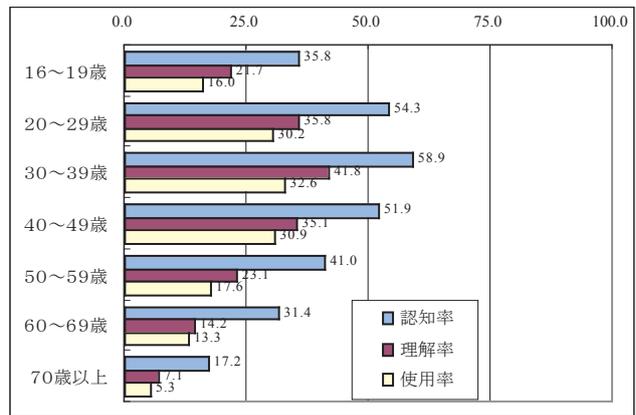


図2 定着度（年齢層別）%

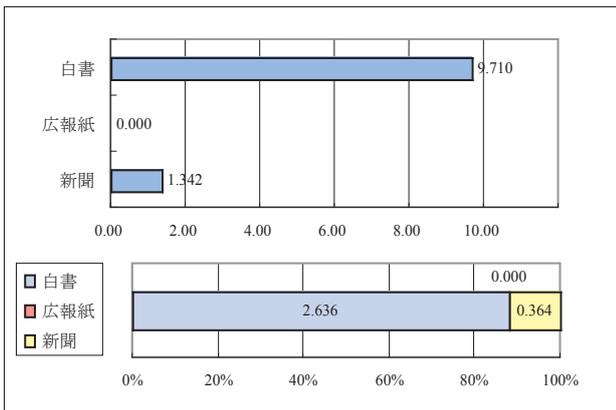


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

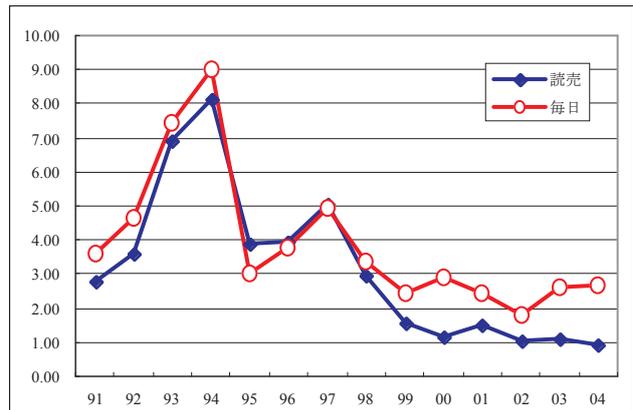


図4 新聞14年間の頻度推移（出現率）

- 定着度はやや低い。30歳代が高く、60歳代が低い。
- 公共媒体における頻度は高い。白書への偏在度が高い。
- 新聞の頻度推移は、1994年まで増加の方向にあり、それ以後は減少する。2000年代になるとほぼ横ばいである。

【言い換えの論点】

- 言い換え語は「巨視的」で定着していて問題ないと考えられる。コンピューター用語の「マクロ」も言い換えるべきだという意見もあったが、公共的な媒体ではほとんど使われていないので言及しなかった。

# 141. マスタープラン master plan

「外来語」言い換え提案（第1回）

全体 ★★★☆☆
60歳以上 ★★★☆☆  
**マスタープラン**

**言い換え語**      基本計画

**用例**      自治体が街づくりの**マスタープラン**を作っても、それを条例で保障するのは非常に難しい。

**意味説明**  
 全体の基本となる計画

**手引き**

- ・「マスタープラン」と対になって用いられる「アクションプログラム」[⇒6]、「アクションプラン」は、「実行計画」「行動計画」「実行手順」などと言い換えることができる。
- ・類義の外来語に「ランドデザイン」[⇒40]、「スキーム」[⇒69]がある。全体を長期的、総合的に見る計画を意味する「ランドデザイン」は、「全体構想」、また、体系立った枠組みとしての計画を意味する「スキーム」は、「計画」「枠組み」などと、分かりやすく言い換えたたい。
- ・役所の施策名などを引用する場合なども、「基本計画」などの説明付与をして用いるのが望ましい。

【調査データ】

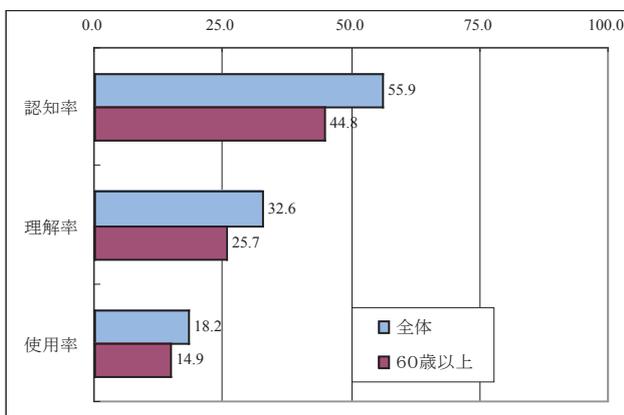


図1 定着度（全体・60歳以上）%

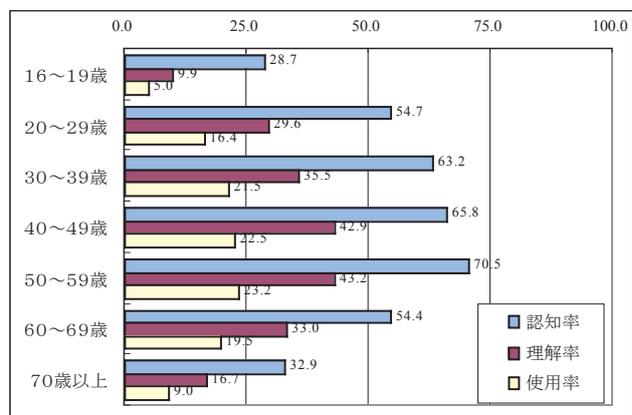


図2 定着度（年齢層別）%

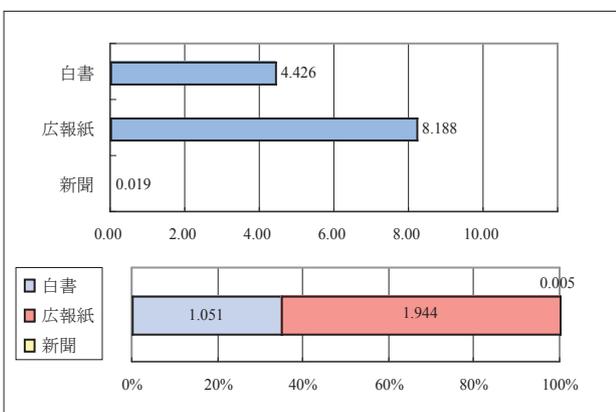


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

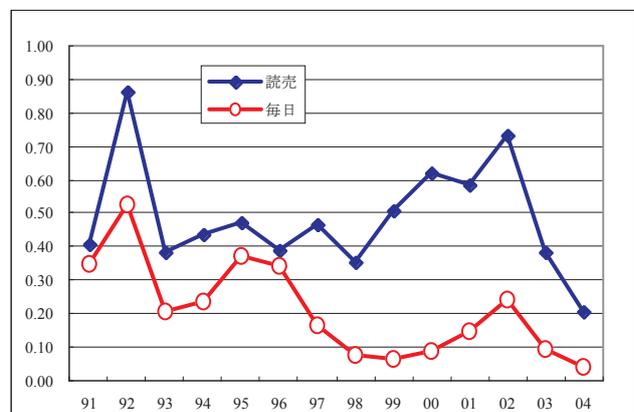


図4 新聞14年間の頻度推移（出現率）

- 定着度はやや低い。
- 公共媒体における頻度は高い。広報誌への偏在度がやや高い。
- 新聞の頻度推移は、毎日新聞は全体として減少の方向、読売新聞では1999年から2002年頃まで山をなしている。2紙の違いは、読売新聞データが1999年以後地方版を含んでいることによるものと考えられる。「マスタープラン」の語は、都市計画にかかわる話題で地方版に多く用いられる。

### 【言い換えの論点】

- 言い換え語を「基本計画」とすることには、全く異論がなかった。役所がよく使う類義の外来語との使い分けについて、[手引き]で言及した。

→参照 アクションプログラム, アジェンダ, グランドデザイン, スキーム

## 142. マネジメント management

「外来語」言い換え提案（第2回）

	全体	60歳以上
マネジメント	★★★★☆	★★☆☆☆
<b>言い換え語</b>	経営管理	
<b>用例</b>	研究開発の責任者と <sup>経営管理</sup> マネジメントの責任者を分離し、前者には国際的水準の研究開発実績を有する者を、後者には研究開発と経営の経験とともに持つ者を充てる。	
<b>意味説明</b>	経営や運営について、組織だつて管理すること	
<b>手引き</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・管理のありようによって、「運営管理」と言い換える方が分かりやすい場合もある。「○○管理」の「○○」の部分で、工夫して言い換えることも効果的である。また、単に「管理」と言い換えることで十分な場合も多い。</li><li>・まれに、管理する人を指す場合があるが、その場合は「管理者」と言い換えられる。</li><li>・定着に向かって語だと思われ、「マネジメント」をそのまま用いることにさほど問題のない場面も多いと思われる。ただし、60歳以上では半数以上が分からない語であり、言い換えや説明付与が望まれる場合も多い。</li></ul>	
<b>その他の言い換え語例</b>	運営管理 管理 管理者	
<b>複合語例</b>	アセットマネジメント = 資産運用 ケアマネジメント = 在宅介護支援 リスクマネジメント = 危機管理 マネジメントシステム = 管理システム	

### 【調査データ】

- 定着度は中程度だがどちらかといえば高い。認知率と理解率の乖離が大きい。
- 公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば低い。白書への偏在度がきわめて高い。
- 新聞の頻度推移は、2000年頃まで増加の方向にあり、それ以後は減少の方向にある。

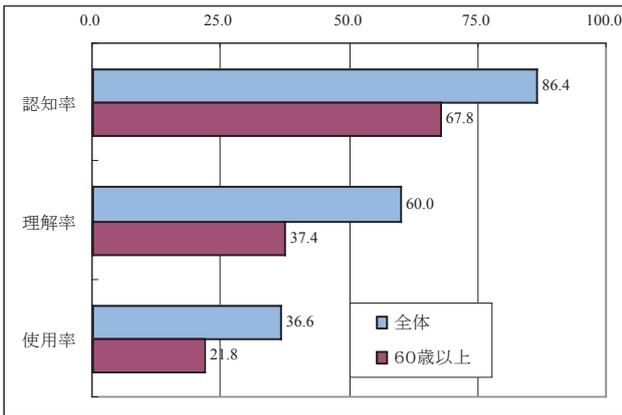


図1 定着度 (全体・60歳以上) %

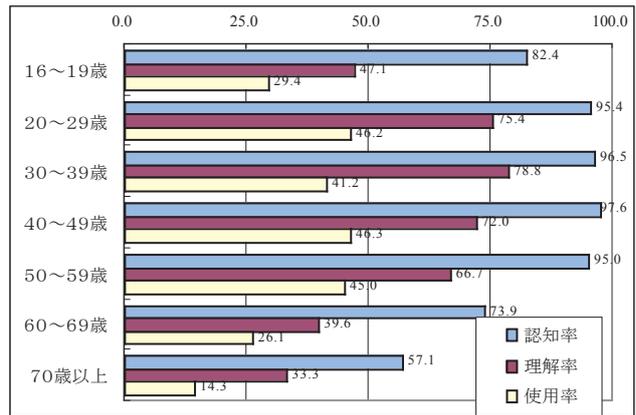


図2 定着度 (年齢層別) %

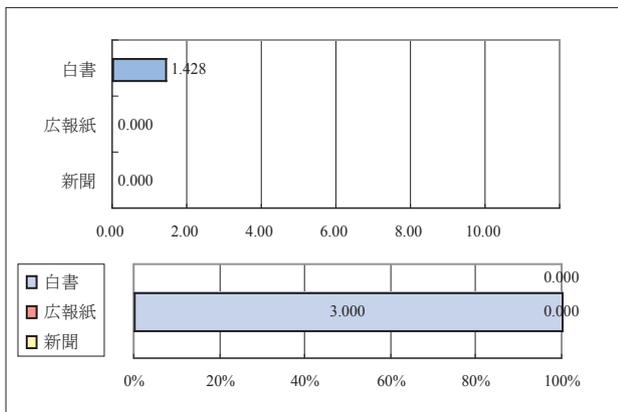


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

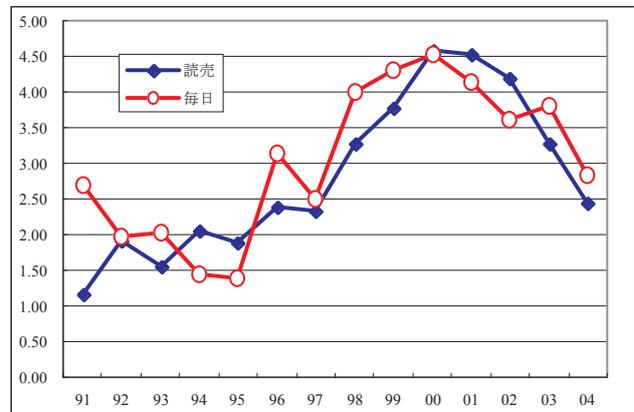


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

【言い換えの論点】

○ 言い換え語は単に「管理」とするのが分かりやすいという意見と、「管理」よりも意味に限定があるので、「〇〇管理」という形で文脈に応じて言い換えるのがよい、とする意見に分かれた。後者の意見を採用し、[複合語例] も含めて、文脈に応じて言い換え語を工夫することを推奨した。

143. マルチメディア multimedia

「外来語」言い換え提案 (第2回)

	全体	60歳以上
マルチメディア	★★★★☆	★★☆☆☆
<b>言い換え語</b>	複合媒体	
<b>用例</b>	さらに一歩進めて、音声、データ、映像など <u>複合媒体</u> マルチメディアを簡単に扱えるようにしたのが第3世代と呼ばれる次世代携帯電話だ。	
<b>意味説明</b>	音声・文字・映像など、多種類の情報を組み合わせた伝達媒体	

**手引き**

- ・双方向的で高速なデジタル情報の伝達に用いられる，コンピューターをはじめとした情報手段を指すことが多い。
- ・定着に向かっている語だと思われ，「マルチメディア」をそのまま用いることにさほど問題のない場面も多いと思われる。ただし，60歳以上では半数以上が分からない語であり，言い換えや説明付与が望まれる場合も多い。

**【調査データ】**

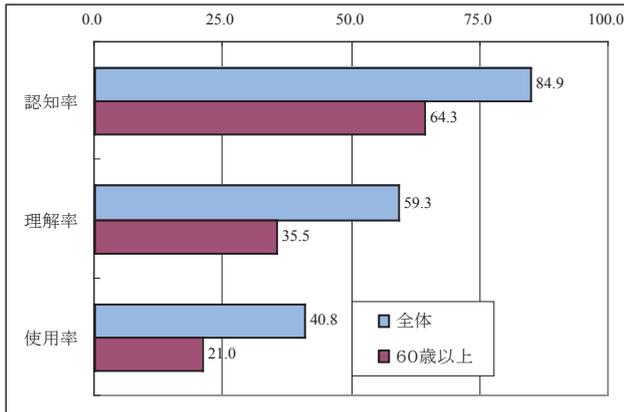


図1 定着度（全体・60歳以上）%

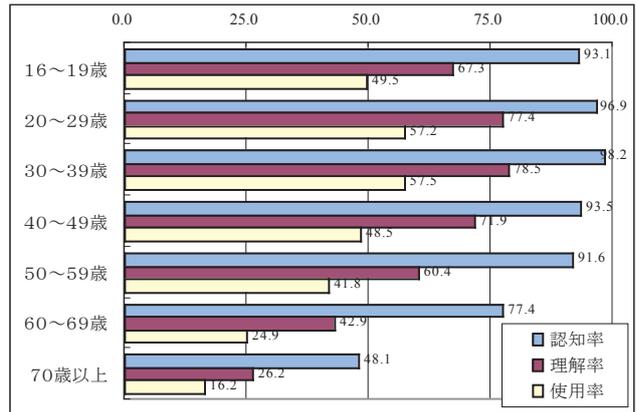


図2 定着度（年齢層別）%

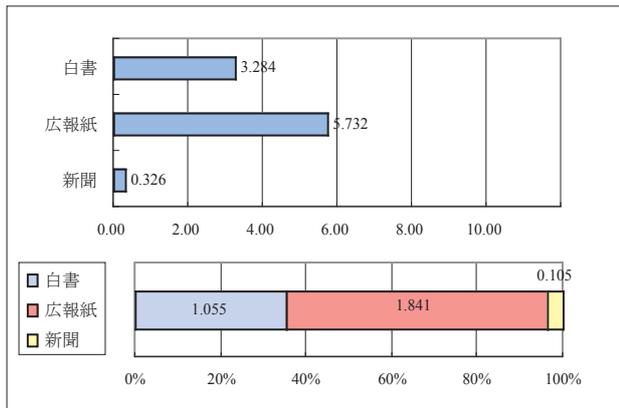


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

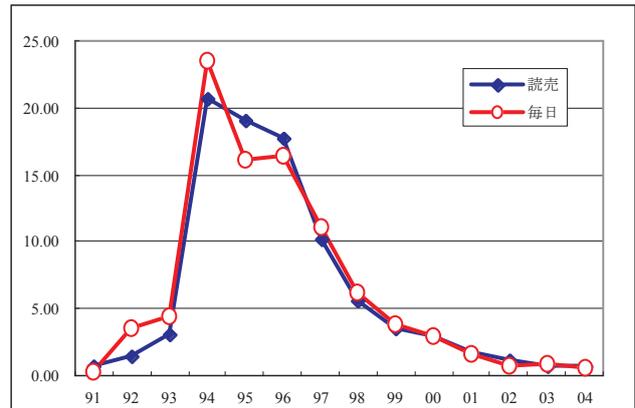


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

- 定着度は中程度だがどちらかといえば高い。認知率と理解率の乖離が大きい。
- 公共媒体における頻度は高い。広報誌への偏在度がやや高い。
- 新聞の頻度は，1994年に急増し，その後，数年間使われた後，1997年以後急速に減少する。

**【背景事情】**

- パーソナルコンピューターやCD-ROMの普及に伴い，音声・文字・映像などを組み合わせて情報を伝える技術が一般化したことで，1990年代半ばに急速に普及した。しかし，目新しさがなくなるにつれ，最近では話題になることが減少している。

**【言い換えの論点】**

- 言い換え語は，「複合媒体」で問題ないと考えたが，「メディア」を「媒体」と言い換えるとかえって分かりにくい，という意見が外部から多く寄せられた。「メディア」単独の理解率も，国民全体63.2%，60歳以上35.8%であり，決して高くない。「メディア」も言い換える必要のある場合も多いと考えた。